

令和3年度 水戸商工会議所 水戸市への提案・要望書(回答)

水戸市

I. 全国商工会議所観光振興大会 in 水戸開催に関する要望

〈全国商工会議所観光振興大会 in 水戸準備特別委員会〉

全国商工会議所観光振興大会 in 水戸 開催に関する要望(新規要望)

日本商工会議所と各地商工会議所が共催で行う「全国商工会議所観光振興大会」につきまして、令和6年2月に水戸市での開催が決定いたしました。

本大会は商工会議所の観光に対する意識改革を図り、地域のホスピタリティ能力の向上や魅力ある観光資源の発掘、磨き上げおよび情報発信への取り組みなどについて学ぶことを目的に平成16年から毎年開催されているもので、全国各地から商工会議所役員議員ら1,500人超が参加する大型コンベンションでもあります。

大会開催地は公募によって選定され、当所では昨年度開催地に立候補し、日本商工会議所観光・インバウンド推進委員会でのプレゼンテーションを経て開催地に決定いたしました。大会日程は令和6年2月21日から23日までの3日間を予定し、新水戸市民会館をメイン会場として予定しております。

「自分の道を見つける旅へ。」～刺激を求めての観光から、あなたの答えを見つける観光への転換～を大会テーマとし、水戸が観光都市として目指す未来を明確に示す企画としてまいります。

歴史ある水戸の魅力を最大限に活かした内容をつくりあげるとともに、エキスカッション等では水戸市内をはじめ県内近隣各地への観光の連携効果をもたらすことも企画してまいります。

大会開催にあたり、当所では準備特別委員会を設置し、当所役員議員、貴市をはじめとした行政関係者、関係機関の皆さまにもご参画いただき、大会内容の精査、準備を進めているところですが、引き続き大会準備について人的なご支援をいただくとともに、大会開催にあたっては財政的な支援につきましてもお願いしたく要望いたします。

今後「学びの道」、「発酵食の道」、「サイクルルート」など具体的な「道づくり」や、水戸を訪れる人に喜んでいただける「水戸独自のユニークなグルメ紹介ページづくり」、「ミシュランガイドへの県内飲食店の掲載」などを企画してまいりますのでご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

期待される効果等

- ・大会開催によるコンベンション機能の促進。
- ・大会開催を契機にした水戸発の観光イメージ向上。
- ・水戸のグルメイメージアップ。
- ・市民、児童、生徒、学生のおもてなし意識向上。

【回答No.1】 担当課：観光課

本市におきましては、水戸の魅力を発信し、多くの交流人口を創出することによる産業の育成、経済の活性化に向け、その効果の高いコンベンションの誘致を積極的に推進しており、水戸観光コンベンション協会と連携しながら、首都圏の企業や団体等を中心に、新たな需要を開拓するためのプロモーションやPRの強化などを進めているところであります。

そのような中、貴所におかれましては、「全国商工会議所観光振興大会」の本市開催に向け、プロジェクトチームの設置、ワークショップによるテーマやコンセプト等の検討、プレゼンテーション用の動画制作など、大久保会頭を中心に一丸となってPR活動に取り組み、令和3年3月、全国各地から1,500人規模の関係者が集う大規模なコンベンションの誘致に成功されました。

本市といたしましても、偕楽園や弘道館、水戸藩などの歴史と文化はもとより、梅や納豆といった食資源、水府提灯や七面焼等伝統工芸品など、水戸ならではの魅力を全国に発信する絶好の機会になるとともに、

飲食や宿泊をはじめ、大きな経済波及効果が創出されるものとして期待しているところであります。

このことから、全国商工会議所観光振興大会の開催に向けましては、準備特別委員会への参画はもちろんのこと、市民、事業者、行政が一体となって、大会関係者を温かく迎える意識の醸成を図るほか、水戸観光コンベンション協会とも連携しながら、エキスカーションで案内する観光施設との連絡調整、おもてなしに資するメニューの提供なども含め、これまでの開催自治体における支援の事例も参考にしながら、様々な支援、協力を行ってまいります。

II. コロナ禍における地域経済の振興に関する提案・要望

1. 地域経済の振興

(1) 中小企業者向けコロナワクチン接種枠の確保(新規要望)

〈小売商業部会〉

新型コロナウイルスワクチン接種については、国が主導し、医療機関による個別接種や各自治体による集団接種・大規模接種が行われているほか、大企業を中心に職域接種が進められている状況です。

しかしながら、中小企業においては医師や接種場所の確保など職域接種の対応は極めて困難であり、各地の商工会議所をはじめとする中小企業団体等による職域接種が実施されているものの、実際の職域接種は一部に留まっているところです。

つきましては、新型コロナウイルスワクチンの効果については、さらなる検証がなされ、感染収束が望まれるところですが、今後、3回目のワクチン接種が実施される場合や、更に感染力の強い変異型ウイルス、新たな未知のウイルスによる感染拡大が起こった際のワクチン接種について、感染拡大を迅速に防止するための対策として、水戸市が実施する集団接種や大規模接種におけるワクチンの一部を中小企業者向けに確保いただくなど、迅速な接種に向けた環境整備の検討を要望いたします。

期待される効果等

・職域接種の早期取り組みによる経済活動の影響軽減に資する。

【回答No2】 担当課：保健予防課

追加接種につきましては、2回目接種から概ね6か月を経過した方を対象に実施するものであり、接種券につきましても、追加接種が可能になる時期に合わせ、順次、御本人宛てに発送することとしております。このため、中小企業者の皆さまにおかれましては、2回目接種の時期が一律でないことから、追加接種の時期がまちまちであると考えられ、御要望のありました、大規模接種会場等におけるワクチンの一部を中小企業者向けとして優先的に確保することは難しい状況でございます。なお、本市におきましては、接種対象者の全ての方が接種することができる十分な会場を確保しております。

追加接種の時期が到来した方から順に個別に御予約いただき、できるだけ早期に追加接種を受けていただきますようお願い申し上げます。

(2) 水戸市プレミアム商品券事業の支援・継続(継続要望)

〈小売商業部会、卸商業部会〉

今年度実施した「みとちゃんのプレミアム商品券」事業では一般枠、子育て支援枠合わせ、5万セットに対し約8万6千セット分の申し込みがあり好評を得ることができました。

プレミアム商品券による消費喚起は市民からの関心も高く、市内中小企業振興にも一定の効果があるものと考えております。しかしながら長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、市内の消費動向は依然として厳しい状況が続くと予想されることから、継続的な振興策が必要であります。

つきましては、本事業を単年度ではなく継続事業として、令和4年度以降の継続を要望いたします。

期待される効果等

・プレミアム商品券の発行による消費喚起、市内小売、サービス業の活性化が期待できる。

【回答No.3】 担当課：商工課

本年度実施しているプレミアム商品券事業は、市内経済の活性化と消費の拡大を図るとともに、子育て世帯を応援することを目的として、3割以上お得な商品券を令和3年7月に 50,000 セット発行し、令和2年度に引き続き多くの市民の皆様にご利用いただいているところです。しかしながら、商品券事業が、地元消費喚起及び地域経済活性化に寄与する一方で、生活支援としての利用側面が強いことや、利用業種に偏りが見られるなどの課題も引き続きあるものと認識しております。

今後につきましては、長期化するコロナ禍において、引き続き消費を喚起する施策が必要であると考えられる場合には、課題等を整理しつつ、本事業の実施について検討してまいります。

(3)物品の調達と公共事業の地元企業への優先発注継続、公共工事の品質確保に合わせた

適正価格・見積期間設定(継続要望)

〈工業部会、建設部会〉

厳しい経済環境の中で地元企業を育成・発展させていくためには、市内企業からの物品調達や計画的・安定的な公共工事の発注を行うなど、投資した資金を地域内で循環させ、地域経済を活性化させていくことが必要です。

つきましては、引き続き地元企業への優先的な発注および物品調達と併せ、市内に営業実態のない企業への発注や、受注事業者の偏りがないよう公平性を確保した体制づくりをお願いいたします。

また、関係法律を遵守するとともに、最低制限価格制度や低入札価格調査制度の活用によるダンピング受注防止策を継続・強化していただくとともに、法定福利費の明確な区分・設計書への記載、適正な競争原理および適正価格・適正工事期間による発注と見積もり期間の見直しなどにより、公平性を確保した上で施工中の進捗状況の把握と管理を強化し、適正な発注をいただけますよう要望いたします。特に、国や県の公共工事に合わせた見積期間の引き延ばしと、小規模工種の数量および施工困難な場所の施工は、通常価格では不可能な場合があるため、小口割増等での単価改善をお願いいたします。

公共工事は予算の関係上、時期によって工事発注の起伏が大きく、繁忙期は人手不足などの問題が発生しますので、年度をまたいだ工事発注も含めて、計画的に行えるような体制づくりを要望いたします。併せて公共工品質確保のため、発注支援を民間会社へ外注するための体制づくりを今後も検討いただきますよう要望いたします。

昨今のコロナ禍で地域経済が落ち込んでいる中、公共工事は波及効果が大きいので、公共工事予算の確保、および公共工事に新型コロナウイルス感染症対策経費を組んでいただけますよう要望いたします。

茨城県が行う建設現場を働きやすい環境とする取り組みとして、男女とも快適に使用できるトイレ設置のための快適トイレ普及促進工事、労働環境改善に対する意識向上を図るための完全週休2日制促進工事の実施を要望いたします。

※当所建設部会は、建設業以外に、土木、設計、電気工事、建築コンサルタントなど様々な業態からなる部会です。多種にわたる建設業関係者で取りまとめました。

期待される効果等

・地元企業からの物品調達や計画的・安定的な公共事業の発注と適正価格での発注が行われることにより、地元中小企業の育成・発展および地域経済の活性化につながる。公共工事による地場産業の活性化につなげることができる。

【回答No.4】 担当課：契約検査課、財政課

本市におきましては、指名競争入札の業者選定に当たり、市内に本店、支店、営業所等を有する認定業者の保護及び育成に配慮して行うこととしておりますので、物品調達の発注の際は、地元企業で取り扱うことができる物品の調達は地元企業を公平に指名するよう努めております。

公共工事につきましては、公共工事の入札及び契約の促進に関する法律により、適正な執行と品質の

確保が求められておりますので、電子入札を活用した公正公平な執行と、適正な見積期間の設定、継続費による年度をまたいだ執行に努めております。特に見積期間に関しては、発注する工事の内容等を鑑み、必要に応じて、建設業法等に基づいた期間よりもさらに引き延ばして設定するなど、柔軟に対応しております。

発注支援の外注につきましても、工事発注の際に発生する様々な業務を補足することができ、民間参入促進に有効な手段と認識しております。平成 28 年に発注した東町運動公園新体育館建設工事は、設計段階から施工者が関与するECI方式を導入して施工しました。今後も、公共工事品質確保のための適切な制度の活用を検討してまいります。

工事費の積算においては、標準単価を基本として実勢価格との整合性を図り、速やかに改正単価を採用することや見積等を徴取するなど価格の妥当性を考慮しております。法定福利費につきましても、国及び茨城県の工事積算基準及び標準歩掛と同様に現場管理費率に計上して、予定価格に適切に反映しております。さらに、ダンピング受注の防止策として、最低制限価格制度や低入札価格調査制度の充実を図っており、引き続き、工事等の品質の確保及び適正な発注に取り組んでまいります。

なお、昨今のコロナ禍及びポストコロナにおいて、工事受注者には、国土交通省の「建設業における新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」に沿って感染拡大防止対策を徹底しながらの施工をお願いしているところですが、工事の一時中止や工期の延長の措置、感染症拡大防止対策に係る費用については、国からの通知に基づき適切に対応してまいります。また、公共工事の予算の確保につきましては、市税収入等を勘案しつつ可能な限り確保に努めてまいります。

建設業の適正な労働環境の確保につきましては、「地域の守り手」である地元建設業の担い手確保を図るための責務であります。本市では、建設業の働き方改革を推進する観点から、令和2年度に週休2日制を促進するモデル工場の制度を創設したところですが、また、労働環境改善に対する制度の導入については、引き続き国や茨城県の動向を参考にして検討してまいります。

今後も、物品調達及び公共事業の発注において、関係法令等を遵守し、公正で的確な価格設定を行っていくとともに、適切な工事期間や工程管理を図りながら、地元企業の育成と発展に期するため優先的な発注に努めてまいります。

2. 中小企業等振興策

(1) 設備購入補助金の導入(新規要望)

〈金融・経営支援部会〉

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、市内事業者は空気清浄機や空気清浄機能付きエアコンの導入、大部屋から個室への改装などのほか、サーマルカメラ、アクリル板、消毒液などを備え、事業活動を行っています。

しかしながら、緊急事態宣言の発令など今年度も新型コロナウイルス発生以前の水準まで売上が戻らない中小・小規模事業者にとっては、上記のような感染対策に要する費用は大きな負担となっています。

水戸市近隣のひたちなか市や大洗町では感染対策費の補助制度が導入されている実績があり、水戸商工会議所の相談窓口にも飲食業や観光宿泊業、理美容業などから、感染対策費用の補助を求める声が多く寄せられているところです。

つきましては、水戸市においても感染拡大防止のための什器備品や消耗品購入の際の補助制度導入を要望いたします。また、既に多くの事業者が感染拡大防止のための設備を導入しているため、遡及申請についても検討をお願いいたします。

【参考】ひたちなか市:「新しい生活様式対応支援補助金」

- ・助成額: 100,000円(上限)
- ・補助率: 対象経費支払済額の3分の2
- ・対象経費:

○物品購入費……………アクリル板、飛沫感染防止シート、非接触式体温計、空気清浄機等導入費

○設備の設置・改修費用・・・飛沫感染防止や換気、またはソーシャルディスタンスを保つための設備設置または改修に要する費用

期待される効果等

- ・事業者や消費者も安心して取引ができ、今まで以上に感染拡大防止に取り組むことができる。
- ・事業者の金銭負担を低減し、安定した企業活動の一助となる。

【回答No.5】 担当課：保健衛生課、商工課

本市におきましては、令和2年度、密接な対人対応が必要となる理美容業に対し、新型コロナウイルス感染症への衛生対策に向けた緊急支援といたしまして、1届出施設当たり2万円を給付する新たな補助制度を創設し、本市に届出がある多くの理容所及び美容所施設に御活用いただいたところであります。(862施設：支給率82.6%)

現在のところ、当該制度を継続実施する予定はございませんが、本市といたしましては、国の動向等を注視しながら、ホームページ等による情報提供など、きめ細かな対応に努めてまいりたいと考えております。

同じく令和2年度に、新型コロナウイルス感染症への緊急対策の一つとして、製造業や情報通信業を営む事業者の事業継続を支援するため、感染対策経費のほか、販路拡大や商品開発に係る経費への支援を行ったところであります。

飲食業や宿泊業など、幅広い業種の事業者への補助制度につきましては、事業者ニーズの把握に努めるとともに、他自治体の事例等を参考にしながら、検討してまいりたいと考えております。

(2)商工業者へのコロナ対策支援(継続要望)

〈中部ブロック〉

緊急支援制度をはじめとする、さまざまな支援策に取り組んでいただき感謝申し上げます。

しかしながら、変異型ウイルスによる感染の再拡大により、国の緊急事態宣言ならびに茨城県非常事態宣言が発令されるなど、依然として新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、特に飲食や宿泊、観光関連事業者をはじめとした多数の商工業者が疲弊しております。

つきましては、国や県の支援が対象とならない商工業者も存在することから、引き続き、市独自の支援策を講じるなど、コロナ禍で地域経済が更に停滞することがないよう各種施策を要望いたします。

期待される効果等

- ・長期化している新型コロナウイルス感染症の影響により疲弊している商工業者への支援につながる。

【回答No.6】 担当課：商工課

市内事業者への支援策といたしまして、これまで総額約23億円の緊急対策予算を措置し、地域経済の回復に向けた、切れ目のない支援に全力で取り組んでおります。

これまでに実施してきた取組といたしましては、サービス産業に特化した本市の都市特性を踏まえ、飲食店のほか、宿泊などの観光関連事業者や、交通事業者への支援策を講じるとともに、売上の減少がありながら、国の持続化給付金を受けられない事業者や、休業協力店舗等への支援策など、事業者の事業継続を下支えする支援を行ってまいりました。

また、経済振興・子育て支援プレミアム商品券を3回にわたり発行するなど、消費喚起を促す取組により地域経済の回復にも努めているところです。

コロナ禍による影響が長期化している現状を踏まえ、更なる支援策として、売上の減少が続く事業者に対し、事業継続特別対策支援金(第2次)の給付を令和3年10月から実施してきたところであります。

引き続き、事業者ニーズの把握に努めながら、事業者の事業継続及び地域経済の活性化に資する支援策を検討・実施してまいります。

(3)制度融資利子補給の継続(継続要望)

〈金融・経営支援部会〉

水戸市の制度融資である自治金融と振興資金は平成4年から利子補給および信用保証料の補給が行われており、平成29年からは小規模事業者経営改善資金(マル経融資)についても利子補給制度が復活

しました。

令和2年度の当所における斡旋・推薦実績は、茨城県制度融資や日本政策金融公庫の新型コロナウイルス対応融資に申請が集中したため件数ベースで自治金融109件(前年比32%)、マル経融資46件(前年比47%)と減少しました。

しかしながら、茨城県の「新型コロナウイルス感染症対策融資」は令和3年3月末に申請受付が終了し、5月末の融資実行をもって取扱いが終了したため、金利が低水準である自治金融やマル経融資は、今後申し込みの増加が見込まれます。

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化するなか中小・小規模企業にとって利子補給は、金利負担の軽減により利用者の経営改善に貢献することが期待されます。

市内中小企業の今後の経営の安定と地域経済の活性化を図るため、令和4年度以降も引き続き自治金融・振興資金およびマル経融資の利子補給を継続いただくとともに、更なる地域経済活性化を図るため、現状の補給率1%の引き上げについても検討いただきますようお願いいたします。

期待される効果等

・厳しい経営環境が続く中小・小規模企業の経営の安定と地域経済の活性化につながる。

【回答No.7】 担当課：商工課

自治金融などの制度融資の利子補給につきましては、中小企業の振興を図るため、引き続き、令和4年度も継続してまいりたいと考えております。

補給率の引き上げにつきましては、新型コロナウイルス感染症による影響や国・県の施策や融資利率の動向等を総合的に勘案しながら、必要に応じて検討してまいります。

Ⅲ. カルチャー&スポーツ等による地域振興に関する提案・要望

(1) 市民会館の早期整備ならびに周辺道路の整備(継続要望)

〈小売商業部会〉

水戸市の新市民会館は供用開始が令和5年7月と伺っております。

水戸市の中心市街地においては、近年、歩行者通行量の減少が続く、早急な活性化策が求められており、中心市街地活性化の起爆剤として市民会館の早急な整備と共用開始が期待されております。

また、令和6年2月には当所と日本商工会議所共催による1,500人クラスのコンベンション事業「全国商工会議所観光振興大会 in 水戸」を開催し、大会では同施設をメイン会場として使用する予定です。

当該地域は新市民会館の開館に伴うコンベンションの受け皿となるほか、スーパーマーケットの出店に伴い地域住民の買い物需要が高く、高齢者を中心とした歩行者も多く、住みよい街並み整備の観点からもニーズが高い地域であります。

つきましては、市民会館の整備、開館について計画通り進行していただくとともに、確実な供用開始を要望いたします。

また、市民会館の整備に合わせ幹線市道4号線(国道349号より西の区間)における市民会館と水戸芸術館の間につきましては拡幅や電線地中化などの整備が予定されていますが、大工町側につきましても段差の解消など歩道整備を要望いたします。

期待される効果等

- ・新市民会館の開館により中心市街地における賑わい創出が期待できる。
- ・コンベンション機能の拡充により、大型催事、コンベンションの誘致による経済効果が期待できる。
- ・中心市街地のバリアフリー化により、住みよい街並み整備が促進される。

【回答No.8】 担当課：新市民会館整備課、泉町周辺地区開発事務所

新市民会館につきましては、周辺商店会等と連携を図りながら、文化的・都市的魅力を創出して、居心

地がよく、歩きたくなるような雰囲気演出し、周辺の回遊性を高めるなど来館者等によるにぎわいの効果を周辺地域へ波及させる施策に取り組んでまいります。

さらに、観光資源等と連携し、地域の魅力を高めつつ、その魅力を全国へ発信するなど、新市民会館の周辺地区が町全体の活性化のエンジンとなるような施策に取り組むことにより、本市の都市力の向上を図ってまいります。

新市民会館の整備につきましては、令和2年4月から再開発事業の本体工事が始まり、令和4年10月の施設の完成に向け、着実に前進しています。今後も、市街地再開発事業の施行者である泉町1丁目北地区市街地再開発組合と連携を図りながら、事業の推進に向けて全力で取り組んでいきます。

幹線市道4号線につきましては、今般の泉町1丁目北地区市街地再開発事業の施行に合わせて、国道349号から茨城トヨペット付近までの電線地中化及び美装化等の工事を行っているところであり、令和5年1月頃の完成を予定しています。御要望のさらにその先の県道までの区間につきましても、食い違い交差点の解消やバリアフリー化を順次進めていきたいと考えております。

課題としましては、大工町エリアについて、道路の幅員がやや狭く、車両の対面通行を維持しつつ両側の歩道に十分な幅員を確保するのが困難な状況であるため、現況の道路幅員の中で、どのような効果的な整備が可能か、地元の方々と十分な調整が必要となるもので、考え方の共有を図りながら、賑わいの創出や住環境の改善、優れた景観形成に寄与する道路整備へと繋げてまいりたいと考えております。

(2) (仮称)並木通りの整備促進(継続要望)

〈まちの資源活用委員会〉

新市民会館西側の(仮称)並木通りを芸術館から京成百貨店西側、さらには千波公園西の谷入口まで、一体感を持たせた整備をすることにより、街並みの景観向上を図り、歩きたくなるまちづくりを提案いたします。

当所では平成30年から、この提案事項の前段階として周辺商店会等の協力の下、実行委員会を立ち上げ、京成百貨店西側歩道(京成通り商店会)における景観向上と回遊促進を目的に、植栽とオープンテラス風にベンチ等を設置する「水戸市泉町地区街並み景観向上・回遊促進事業」を実施しました。

本事業により、歩いて楽しめる空間を実証・提案し、新たな賑わい創出と千波公園西の谷の活用、中心市街地から西の谷・偕楽園・千波湖への回遊促進を図りました。

水戸芸術館から新市民会館西側の道路については、芸術館西通り線の拡幅整備に伴う美装化により並木等を使った計画としているとのことですが、今後上記エリアは水戸の新たな魅力的な通り(ストリート)として、西の谷・偕楽園・千波湖へと続く重要な役割が期待できるため、新市民会館の整備と併せた整備を要望いたします。

期待される効果等

- ・水戸芸術館・新市民会館・京成百貨店から西の谷・偕楽園・千波湖への市民や観光客が「歩きたくなるストリート」としての魅力向上が期待できる。
- ・各店舗等の魅力的な街並みの景観づくりなどの意識高揚にも繋がる。

【回答No.9】 担当課：泉町周辺地区開発事務所、都市計画課

水戸市中心市街地活性化基本計画において、水戸芸術館から京成百貨店までを中心とする泉町周辺地区を「芸術・文化の中心」と位置付け、連続した開放的な空間や質の高い景観づくりを進めることとしております。

御要望にあります路線のうち、都市計画道路7・5・9号芸術館西通り線(国道50号交点から大町通り交点までの約245m区間)につきましては、道路の拡幅整備に伴う対面通行化にあわせ、バリアフリー化や美装化の整備を進めているところであり、並木も含めた緑化対策につきましても、街並みに潤いをもたらす重要な要素であることから、京成百貨店西側からの連続性も踏まえて国道50号から幹線市道4号線までの区間は高木を植栽いたします。なお、樹種につきましては、常緑樹の中では明るめの葉を持つシマトネリコを予定しております。さらに、泉町1丁目北地区においては、建物のセットバック部分も含め、外構部分を積極的に緑化することで、緑に奥行きを持たせる計画であります。また、幹線市道4号線から大町通りま

での水戸芸術館西側の区間につきましては、沿線の皆様との協議も踏まえ、街路樹に代えて水戸芸術館側の歩道の一部に計4か所の植栽帯を設けることとし、ここに季節の花々を植えることで、来街者の目を楽しませる計画としております。

一方、京成百貨店西側から南へ向かい、西の谷の入口に至る一方通行の区間につきましては、幅員が狭く、歩行者の安全確保の観点から、現状では道路上への植栽等の設置は難しい状況にありますので御理解願います。

(3)千波湖西の谷の活用(継続要望)

〈小売商業部会、中部ブロック〉

市民のオアシスである千波湖周辺にはまだまだ整備すべき場所が複数ありますが、西の谷もその一つであると思われます。駐車場としては290台のスペースを備えており、利用料も無料で、記念碑や光圀公の命により庶民の為に薬草を栽培させた想いを形にした薬草園もあります。

しかし、これほど歴史的にも素晴らしいこの地が、あまり知られていないのが現状です。また、新市民会館が整備予定の中心街から千波公園を結ぶ重要な拠点でありますので、例えばエレベーターの整備など、往来するためのバリアフリーに配慮した動線の整備や案内板等の作成等や車椅子等でも利用しやすい安全・安心な公園の整備をお願いいたします。

また、より一層の活用を目指し、近年需要が高まっているキャンプやスケートボード施設等の整備など自然や高低差を活かした取り組みについての検討もお願いいたします。

泉町での買い物や水戸芸術館利用、今後の新市民会館の完成を考えても、この動線は泉町エリアから千波湖への徒歩での貴重な大動脈でありますので、中心市街地の利便性アピール、観光客の回遊性によるにぎわい創出が期待できるエリアとなるよう整備の具現化も併せてお願いいたします。

期待される効果等

・西の谷の活用により、新市民会館の完成の効果がより強く実感できると期待される。

【回答No.10】 担当課：公園緑地課

千波公園西の谷は、大工町や泉町などのまちなか交流拠点と偕楽園や千波公園等を結ぶ絶好の立地にあり、自然に囲まれた緑地空間となっているとともに、その地区特性を生かして、まちなかの動線確保、回遊性向上のための重要な資源であると認識しています。そのため、平成30年度には既存の階段に光を当てることにより幻想的な雰囲気を演出する「光の階段」のほか、バリアフリーに配慮した駐車場やトイレの整備を実施いたしました。また、緑や湧水などの特徴を生かし、ホテルの見られる環境づくりや水戸藩にまつわる薬草園の整備運営などソフト事業にも力を注いでおります。

御提案のエレベーター等バリアフリー動線の整備や、さらなる活用を目指したキャンプ等のための整備につきましては、西の谷が備えるべき非常に有効な機能であると認識しておりますので、今後、課題を整理しながら検討してまいります。

今後とも、まちなかと連携し、観光客の回遊によるにぎわい創出が期待できる千波公園西の谷を目指してまいります。

(4)千波湖南岸の新しいテラス型親水デッキの整備(継続要望)

〈まちの資源活用委員会〉

当所では千波湖の利活用を目的に、平成29年度から千波湖利活用推進事業として「千波湖川床」(夜の部)と「千波湖カフェ」(昼の部)を開催し、毎年多くの方にご参加いただき好評を得ております。

令和2年度は、好文カフェ前の親水デッキと湖面側遊歩道の50m を利用し、2地点でのイベントを開催しました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症対策によるソーシャルディスタンスの確保のため、席数の制限と予約数の削減など規模を縮小しての開催に、出店店舗や参加者から不満の



▲多目的親水デッキのイメージ

声があがりました。

本事業は昨年度から「千波湖魅力向上事業実行委員会」を立ち上げ、民間主導での運営に移行することにより、事業は新たな段階へと進んでいます。

また、千波湖・偕楽園エリアでは、行政によるパーク-PFI事業が進んでおり、今後は更に千波湖利活用の幅は広がっていくことが予想され、市民の憩いの場だけではなく、観光客を呼び込む新たな地域資源として水辺の活用が求められています。

そこで千波湖南岸に常設の多目的親水デッキを新設し、より充実した川床事業の実施や、さまざまな新規事業の展開を促すと共に、未来を担う子供たちが千波湖の水に触れ合うことのできる環境や、湖面を更に活用することも視野にした整備を提案いたします。

期待される効果等

- ・新しい常設のテラス型親水デッキの整備により、川床事業をはじめとした多様なイベントを恒常的かつ安心・安全に実施することができ、千波湖を活用した観光事業等、さまざまな新しい取り組みが行える。
- ・併設する親水ゾーンの整備により千波湖における子供たちの環境教育や多世代交流、賑わいの創出が図れる。
- ・湖面の活用では、ボート等を活用した新しいイベントも考えられるようになり、水戸の新しいイメージアップにもつながる。

【回答No.11】 担当課：公園緑地課

千波湖の活用につきましては、平成 30 年度にD51 駐車場の整備、令和元年度にふれあい広場の整備がそれぞれ完了し、年々イベント等に使用される機会が増えており、今後も様々な形態で活用の頻度が高まるものと期待しております。また、貴所におかれましても、国が推進している官民一体の協働プロジェクト「ミズベリング」とリンクし、千波湖において実施されている川床事業につきましては、水辺の更なる魅力向上に寄与しているものと考えております。

現在、本市におきましては、千波公園のより一層の魅力向上を図るため、千波公園西側の黄門像広場周辺地区においてパークPFI事業による民間施設の誘致とともに、平成 28 年5月に策定した「水戸市偕楽園公園(千波公園等)整備基本計画」に基づき、年次的、段階的にリニューアル工事を進めているところであり、御要望の親水デッキや子どもたちが千波湖の水に触れ合うことのできる環境の整備につきましては、千波湖導水事業によって水質が向上することで、ニーズがより高まるものと認識しておりますので、継続して検討してまいります。

(5)千波湖せせらぎ広場を水生植物のビオトープとして活用(新規要望) <観光サービス部会>

「水戸の梅まつり」期間中は多くの観光客が訪れる春の一大イベントですが、水戸市は梅の他に桜やつつじ、あじさい、萩など四季折々の花が楽しめる素晴らしい景勝地と資源を持っています。それらを活用し、今後は一年を通して花を楽しめる公園都市として整備し、歴史と共に水戸の魅力を高めてはいかげでしょうか。

千波湖畔のせせらぎ広場を、湿地でもある特性を活かして、水生植物のビオトープとし、特に「あじさい」から「萩」までの間に開花するヒツジクサ、スイレン、花しょうぶ、あやめなどで、花のない千波湖畔を彩ることが出来ると思います。

オールシーズンを目指して、SNS等インスタ映えするようなポイントをつくり、全国へ発信してもらえる仕掛けづくりを要望いたします。

期待される効果

- ・水戸周辺の自治体とも連携を図ることで、滞在日数が増え宿泊者が増加する。
- ・国営ひたち海浜公園のネモフィラのように、来園者のSNS等を通じて広く情報が拡散され、その効果により観光客が増加する。

・ビオトープ作りのワークショップやカフェメニュー提供スペース等の併設で、水戸の滞在時間を長くでき、経済波及効果が高まる。

【回答No.12】 担当課：公園緑地課

千波公園では、現在、市民団体と市の官民連携により水生植物によるビオトープづくりを進めております。その一環としてせせらぎ広場にも、平成24年にビオトープを実施しております。四季折々の花を楽しめるよう、スイレン、花しょうぶ等でビオトープづくりをする御提案は十分実行可能と考えられますので、市民団体や専門家に意見をお聞きしながら、検討してまいります。

(6)千波湖を起点とした市民とインバウンドの交流(継続要望)

〈中部ブロック〉

千波湖周辺はウォーキングやランニングを楽しむ人が多く、そのための整備も年度毎に進められてきました。しかし利用者にとってはまだまだ整備が十分な状況ではなく、ルールの一貫やマナーの向上といった取り組みも立ち後れているのが現状です。また整備が追いつかないことで近年注目されているランニングやロングライドなどのインバウンドの取り込みができていないことも憂慮すべきです。

利便性向上と、新たなカルチャーにターゲットを絞ったインバウンドに対応できるよう環境整備が急務です。当所としては、再利用が決定しているレイクサイドボウル跡地と連動して、千波湖西駐車場にPFI事業でのランニングステーションの整備を提案いたします。

○キーワード:市民とインバウンドが健康というキーワードで交流できるまち

単なるランニングステーションではなく、初心者へのランニングの指導を行うほか、コンセプトを「健康増進のための総合施設」としたフィットネスジム、シャワーやロッカールームのレンタル、レンタサイクルなどの運営など総合的にサービスを提供し、市民もインバウンドも気軽に利用できる交流の場になるような施設の整備を提案いたします。

さらに、ランニングステーションでは、webでの予約は勿論のこと、Wi-Fi の環境整備やスマートフォンなどを利用したロッカーの施錠解錠、レンタサイクルの利用など、ソフト面の整備も必要です。



【回答No.13】 担当課：公園緑地課

ランニングステーションにつきましては、近年、健康志向の高まりとともに、千波公園の1周3キロのジョギングコースをランニングやウォーキングで楽しむ人達が増えており、利用者ニーズが高まっていると感じております。また、貴所のほか、これまで議会においても必要性について御提案をいただいております。ニーズが高い施設であると認識をしているところであります。そのため、現在進めている、黄門像広場周辺地区におけるパークPFI事業の中で、ランナーなどの利便性向上に資する施設の導入についても、積極的に取り組んでまいります。

(7)車と人と自転車が共生できるまち(新規要望)

〈小売商業部会・水戸のカルチャー&スポーツ創造委員会〉

国土交通省ではサイクルツーリズム(自転車を活用した観光)による観光立国と、日本型サイクルツーリズムを提唱しています。サイクルツーリズムはインバウンドをはじめ観光振興策の一環として国を挙げて推進しているところであり、また昨今においては新型コロナウイルス感染拡大によるソーシャルディスタンスを確保したアクティビティとしても注目されています。

これには広域でのサイクリングロードの整備とモデルルートを選定、サイクリングガイドの育成などが重要です。また日本の古い城下町では道路などに拡張性がなく、市街地における自転車の立ち位置が非常に曖昧なのも問題です。

北欧は自動車の所有にお金がかかるため、自転車の所有率が高いという特殊な事情があり、専用レーンなどの整備が進んでおりますが、これを参考に水戸市でも中心市街地に自転車専用レーンを設置すると全国に先駆けた取り組みとなります。

また、合わせて市内の公共施設や商業施設でのサイクルラックの設置も必要かと思われまます。サイクルツーリズムの全国的な広がりは、インバウンドをはじめとする広域観光をはじめ、地域におけるマイクロツーリズムの推進手段としても注目されています。自転車のような小回りの利く移動手段で市内の観光スポットを周遊する取り組み等、新しい観光振興策として当所としても積極的に推進していきたいと考えております。

一方で、全国的に広がるスポーツ自転車の普及に伴い、自転車駐輪設備の不足が見られます。特に自立スタンドが無いスポーツ自転車(ロードバイクやクロスバイク)は壁に立てかける必要がある等、シティサイクルに比べスペースを取り、また盗難の危険性が高いため鍵のかけ方についても既存の駐輪スペースには駐輪しづらいケースがあります。水戸市自転車利用環境整備計画でも駐輪スペースへのラックの設置について位置づけられており、安全な駐輪環境の整備はサイクリストの誘客のために必要不可欠な施策と考えられます。

市民やインバウンドで利用する方にはwebで分単位、あるいは時間単位での利用予約、電子マネーでの決済などもサービスとして提供すると利便性は向上します。令和5年完成予定の新市民会館にはサイクルラックなどの設置を要望いたします。

ハード面では、サイクルステーションとサイクルラックの設置整備、そして JR 東日本の協力も不可欠で、週末でのサイクリトレインなどの試験的運用を行うことで、インバウンドの需要をどれだけ取り込めるか判断できると思います。合わせて需要が見込めれば、水戸駅施設の改修を行い、構内に自転車が行き通れる南北横断のレーンの設置を依頼し、県や水戸市に対しては南北ペDESTリアンデッキのエレベーター改修を依頼したいと考えています。また茨城県ではナショナルサイクルロード「つくば霞ヶ浦りんりんロード」の整備を皮切りに「奥久慈里山ヒルクライムルート」、「大洗・日立海浜シーサイドルート」を創設するなど、オール茨城でのサイクルツーリズムに取り組んでおり、ソフト面の整備としてモデルルートを選定と、ガイドの育成と認定制度の創設を考えてはいかがでしょうか。

国内では富山市が積極的にレンタサイクル事業を行っており、市内 23 カ所にステーションを設けて 24 時間365日無料で貸出を行っています。運営は民間会社が行い、令和元年度は約74,000回の利用がありました。

○キーワード: エコな乗り物で観光できるまち

環境に敏感な欧米のインバウンドを呼び込む施策

気軽に自転車を利用できるまち

自動車と自転車が共生できるまち

【回答No.14】 担当課：交通政策課、新市民会館整備課

本市におきましては、水戸市自転車活用推進計画に基づき、自転車通行空間の整備をはじめ、自転車の通行指導を行うなど、自転車に乗ってみたいくなるまちづくりに努めているところです。

自転車専用レーンの設置の御提案につきましては、本市の道路事情から、道路空間再配分等を行っても、自転車専用通行帯に転用可能な幅員を確保することが困難であるため、車道混在型の自転車通行空間を基本として整備しております。今後、幹線道路の整備に合わせ、専用レーンの導入についても検討してまいります。

サイクルラックの設置につきましては、弘道館駐車をはじめ、市が新たに施設を整備する際には、駐輪場を設置しており、昨年度は、県庁バスターミナル脇の歩道に、24台のサイクルラックを設置いたしました。引き続き、必要な箇所について、駐輪場の導入を進めてまいります。

サイクルトレインにつきましては、現在、JR水郡線と鹿島臨海鉄道大洗鹿島線において、実証実験を行っております。本市も鉄道会社と連携し、サイクルトレインの可能性について注視してまいります。

サイクルツーリズムにつきましては、茨城県において三つのルート並びに協議会を設け、本市もこのうち二つのルートに係るとともに、二つの協議会に加入しております。今年度は、自転車を利用しやすい環境づくりを進めるために、トイレ、休憩スペース、駐輪ラック、空気入れ及び工具の貸出又は商店等による割引サービスを提供する施設として、「サイクルサポートステーション」の協力店を募集し、本市では3店舗が登録したところであります。

茨城県では、インフルエンサーユニット「いばらきサイクリングナビゲーター」を結成し、イベントへの参加やSNSの発信を行っておりますので、県と連携して、本市に係わる二つのルートのPRに努めてまいります。

また、県のルートとあわせ、県央地域におけるモデルルートの設定やガイドの育成等についても検討してまいります。

新市民会館の駐輪場については、限られたスペースの中で十分な駐輪台数が確保できるよう検討しているところであります。御要望のあったサイクルラックなどの設置についても検討を進めてまいります。

(8) スケートボードができる環境整備(継続要望)

〈小売商業部会、中部ブロック〉

現在、中心市街地では若者が街にある縁石や手すりなどを使用して夕方から夜間にかけてスケートボードを行い、周辺住民や他の通行者から迷惑行為と受け取られるケースが発生しているほか、昨年には水戸駅ペDESTリアンデッキから落下し、重傷を負う事故が発生しております。

水戸市においては令和元年12月に駅前広場でのスケートボードなどを禁止する条例を施行したところですが、依然として夜間に迷惑行為を行う事例が散見されます。これは、安全に利用できる環境が整っていないために起こっていることでもありますので、スケートボードを安全に楽しめる施設を整備することにより、一部で迷惑行為となっている事例や事故の軽減が期待できます。

つきましては、中心市街地の空き駐車場や公園などを活用し、手軽で安全に利用できるスケートボード場の整備を要望します。

期待される効果等

- ・若者が中心市街地に集まり、愛着を持ってもらえることによって長期的なにぎわいが期待でき、安心・安全な中心市街地へのイメージアップにもつながる。
- ・避難所としても利用できる。

【回答No.15】 担当課：体育施設整備課、公園緑地課

スケートボードは、子どもから大人まで手軽に楽しめるスポーツであり、東京オリンピックの正式種目になったこともあり、近年、注目されている競技であります。一方、安全上の配慮から、スケートボードの滑走が認められている公共施設は本市にない状況です。

スケートボードができる環境につきましては、初心者から上級者まで、あらゆるレベルのスケートボーダーが安心して快適にスケートボードに親しみ、楽しむことのできる施設として整備する必要があると認識しております。御提案の空き駐車場や公園などの活用につきましては、施設の規模、内容、さらには、

管理方法、ルールなどを含め、スケートボードが手軽で安全に利用できる環境整備について、活動団体の意見等を聴きながら、検討を進めてまいります。

現在、梅まつり開催前の令和4年1月までの限定的な期間、平日の昼間に限り千波公園西駐車場の一部を臨時スケートボードエリアとして開放しております。今後は、千波公園に限定することなくスケートボード場の整備可能性について庁内横断的に検討してまいります。

(9)水戸の宝「花火」を活用した新たなイベントの開催(継続要望) <まちの資源活用委員会>

水戸市には、世界に誇れる株式会社野村花火工業が存在します。

例年、水戸黄門まつりの前夜祭として千波湖畔で打ち上げられる花火大会は、令和元年度に水戸市市制施行130周年を記念し、「水戸偕楽園花火大会」としてリニューアルされ、開催時間の延長や花火の打ち上げ数も拡大し、千波湖畔上に大輪の花を咲かせています。

このところ、新型コロナウイルス感染症のため水戸黄門まつり及び花火大会ともに中止となっておりますが、市民の大きな楽しみであり、夏の風物であることに変わりはありません。

この大切な水戸の宝である野村花火工業の花火を、5月頃に開催される水戸市周辺地域の人気行事に負けないイベントとして、観光客の獲得と賑わいの創出を目的に、「野村花火工業の花火」をメインに据え、また、その時々に応じたタイムリーなイベントとコラボした花火大会の企画を毎年5月に開催することを提案します。

期待される効果等

- ・水戸市周辺地域の5月の人気行事(笠間の陶炎祭・国営ひたち海浜公園のネモフィラ等)に負けない企画の花火大会を開催することで、観光誘客等(宿泊客も獲得)、交流人口拡大を図る。
- ・自衛隊の協力を仰ぐ場合は、有料での開催が不可であるため自衛隊の協力を得ずに花火の打ち上げを実施することで観覧料などが獲得でき、収益事業とすることができる。
- ・水戸の花火を世界に広報周知し、観光インバウンド事業としても将来的に発展させることができる。

【回答No.16】 担当課：観光課

本市におきましては、観光交流人口 450 万人の実現に向け、偕楽園・千波湖周辺の豊かな自然や、水戸徳川家ゆかりの歴史的な観光資源を活用しながら、年間を通して様々なまつりやイベントを開催し、誘客促進を図っております。

その中で、桜の開花時期からゴールデンウィークまでの期間は、水戸の桜まつり、つつじまつり、植物公園・森林公園でのイベント等を集約し、スプリングフェスティバルとして、これらの情報を戦略的に発信するとともに、観光漫遊バスの運行などにより、周遊型観光の充実に取り組んでおります。また、梅まつりでの「夜・梅・祭」にあわせた花火の打ち上げなど、既存のまつりと花火のコラボを実施したところであります。

この花火を活用した取組につきましては、コロナ禍で2年連続の中止となった水戸黄門まつり、水戸偕楽園花火大会及び世界に誇れる水戸の花火をPRするため、昨年10月、アニメとコラボした花火を打ち上げる「水戸偕楽園花火大会 Limited×ソードアート・オンライン」の取組を実施したところです。さらには、梅まつり期間のおもてなし花火のほか、歌舞伎等の伝統芸能と花火をコラボさせた民間主催イベント「水戸歌舞伎花火」の開催に向けた準備も進められております。

本市が誇る花火の活用は、多くの誘客を見込むことができるだけでなく、本市のイメージアップに繋がるものと認識しております。

御要望をいただいたイベントとコラボした花火大会の実施につきましては、有料化に伴う料金設定のほか、水戸偕楽園花火大会との差別化や、警察や近隣施設等といった関係機関との連絡調整、さらには、財源確保など多くの課題の整理が必要となることから、引き続き、貴所をはじめとした関係機関と十分に協議を行いながら、方向づけを行ってまいりたいと考えております。

IV. 次世代に向けた観光振興に関する提案・要望

1. 歴史と文化に触れる観光

「水戸の有形無形の資産、特に歴史や文化を観光資源としての価値を高め、体験型観光の取り組み」

(1)水戸学の理念「文武不岐」の聖地作りと武道ツーリズム(継続要望)

〈観光サービス部会〉

東京オリンピック・パラリンピック大会ではコロナ禍で十分とは言えませんが、改めて日本の文化が世界に注目されたことと思います。57年ぶりの東京開催ということもあり、日本の伝統的な武術である空手の「組み手と型」や柔道の「団体」などが新たに公式種目として採用され、その演技ではテレビに釘付けになった方も多いと思います。特に空手は世界でも1億人以上の競技人口がいると言われ、世界でも大変メジャーな日本の武道の一つでもあります。また近年では弓道を学ぶ外国人も多いと聞きます。

さて、観光庁の統計によると近年の外国からのインバウンドの傾向は、日本への訪問回数は「複数回」、訪問の目的は主に「文化に触れる」、そして一度日本を訪れると再訪を希望する人が多いとの結果が出ています。単に有名な観光地を巡る旅から、日本の文化に触れまた体験するための旅に目的が変わってきているものと判断します。また令和6年2月の「全国商工会議所観光振興大会 in 水戸」では、「自分の道を見つける旅へ。」をキーワードに観光の目的を変えてゆく大会を考えています。

そこで、現在は堀原運動公園で開催されている市民向けの武道教室のコンテンツを拡充し、広くインバウンドに体験できる機会を提供することで水戸の歴史と文化の琴線に触れる観光が提供できるものと考えます。水戸には無形文化財に指定されている北辰一刀流、新田宮流抜刀術、田谷の棒術など、まさに水戸学の理念である「文武不岐」に通じる武道があり、その聖地としてハード面とソフト面の整備を積極的に行うことを提案いたします。

東武館の隣接地に歴史資料館や新たな武道館の整備、藩校弘道館において定期的な演舞を開催することもインバウンドの受け入れに繋がるものと思います。水戸で武道に触れ体験することで、武道を通じて自分を見つめるための新たな観光のあり方を体現できると考えます。

○キーワード: 武道ツーリズム

弘道館での実演

体験型観光

【回答No.17】 担当課：体育施設整備課、観光課

新たな武道館の整備につきましては、多額の費用を要し、他の体育施設についても整備要望を受けていることから、優先順位を含め、整備方針について検討してまいります。

本市の重要施策の一つであるインバウンド観光の推進においては、2023(令和5)年度における外国人の年間入込観光客数を10万人と掲げ、プロモーション活動と受入環境整備を中心とする様々な取組を推進しているところであります。

これまで、本市への訪問割合が高い台湾等に重点化を図り、現地における商談会への参加やプロモーション活動に取り組んでまいりました。あわせて、観光案内パンフレットや案内板の多言語化をはじめ、特設ホームページによる情報発信など、外国人が訪れやすい環境の充実に進めてまいりました。

今後、より一層インバウンド観光を推進していくためには、これまでの取組に加え、外国人が魅力と感ずる、ここでしか見ることができない、ここでしか体験できないものを作り上げ、磨き上げていくことが重要であると考えております。

そのため、ハード面での環境整備として、まずは外国人にとっても観光名所となるよう、弘道館・水戸城跡周辺地区において、水戸城大手門や二の丸角櫓をはじめとした本市ならではの歴史的建造物や周辺景観の整備を積極的に推進してきたところであり、また、観光客の利便性や回遊性を高める取組として、観光案内板や路面表示の多言語化にも取り組んでいるところであります。

そして、ソフト面においては、令和2年11月、水戸学の道を舞台として、市民協働による「古の水戸城址復興記念事業」を開催し、市内外の多くの方々に、水戸ならではの歴史と文化を体験、再認識してい

ただいたところであります。また、外国人観光客に人気の高い日本の伝統文化に触れる機会の創出として、文武不岐の精神を継承する水戸東武館での武道体験をはじめ、本市の食資源を活用した体験の創出など、民間事業者等の協力のもと、本市の魅力を満喫していただける体験プログラムの構築を図っているところでもあり、観光情報誌やホームページ等による情報発信に取り組んでおります。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響により、渡航が制限されている状況ではありますが、オンライン商談会やファムツアーの実施のほか、SNSの活用等、訪日観光の再開を見据えた積極的かつ継続的な情報発信が重要であり、また、貴所が主体となって開催される全国大会をはじめ、民間主体の取組が欠かせないものであると考えております。

引き続き、民間団体等と連携しながら、観光資源の更なる磨き上げに取り組んでいくとともに、水戸市インバウンド推進機構(事務局:水戸観光コンベンション協会)による戦略的なPR、武道体験等体験プログラムを周遊できるツアーの造成といった受入環境づくりを支援するなど、官民一体となってインバウンド観光を推進してまいります。

(2)徳川氏以前の歴史の発掘と観光資源化(新規要望)

〈西水戸ブロック〉

水戸といえば徳川御三家、そして水戸藩主であった徳川光圀公や徳川斉昭公、そして徳川慶喜公などが有名ですが、学校で学ぶ日本史の教科書に徳川斉昭公や徳川慶喜公などの名前が出てくるから知っているという程度の人が多く、特に郷土史を学ぶ授業を行っていないことから、地元の歴史を詳しく知っている方は余り多くありません。全国そして全世界からインバウンドを受け入れるには、水戸の歴史を語ることのできる観光ボランティアの育成や登録制度といったソフト面の整備も必要です。水戸の歴史、文化、景勝地などに詳しい観光ボランティアがいることでインバウンドとの交流が生まれ、新しい観光のあり方を模索することができると考えます。

さて、河和田地区にある「河和田城跡」は1337年、鍛冶弾正貞国により築城されたと伝わる中世城館です。その後江戸氏、春秋氏と領主の変遷を経てきた水戸の中世を語る上でも重要な遺構の一つです。河和田城跡は天徳寺、河和田小学校など東西約510m、南北600mにおよぶ広大な面積を占めており、現在も空濠や土塁、内城など現存する遺構も多く残されております。

つきましては、河和田城跡に限らず徳川氏以前に水戸に勢力を張った豪族を、その年代順に史跡を巡るルートを整備することで新たな観光資源として活用することを提案いたします。徳川氏以前の歴史を発掘し整備することで、郷土の歴史教育の教材としても活用でき、また新たな観光資源として活用することで、歴史が好きな人々の観光需要を刺激することが可能と判断します。



▲河和田城跡の案内パネル

(水戸市設置/水戸市地域文化財記念物)



▲河和田城跡碑(報佛寺)

○キーワード:徳川氏以前の歴史発掘と観光資源化
歴史を辿る観光ルートの整備
観光ボランティアの育成と登録制度
地元の学校での歴史教育

【回答No.18】 担当課：歴史文化財課

本市は3万年前の旧石器時代から近現代に至るまで、豊かな歴史が重層的に蓄積されているのが特徴であり、これを整備・活用していくことは、教育面はもとより観光面においても大きな意義があると認識しております。

特に、河和田城をはじめとする近世以前の歴史的資源の掘り起こしにあたりましては、文献による調査研究に加え、埋蔵文化財の発掘等により、近年めざましい成果を上げており、令和2年度には、埋蔵文化財センターにおいて企画展「江戸氏の野望」を開催し、その成果を広く公開いたしました。

また、県において実施している「茨城県中世城館総合調査」(平成30年度～令和4年度)においては、本市で未知の城館が確認されるなど、新たな発見も得ております。

一方で、発掘調査成果の整理や城館の把握については、まだ時間を要する状況にあります。

そのため、近世以前の歴史的資源の活用にあたりましては、その所在や価値を明らかにするため、埋蔵文化財発掘調査や中世城館総合調査の成果はもとより、様々な調査成果の集約を進め、関連する歴史的資源をつなぐストーリーをまとめ、見学コースを設定するなど、利活用の幅を広げてまいりたいと考えております。

(3)備前堀の観光資源としての価値を高める(継続要望)

〈東部ブロック〉

復元整備を進めてきた水戸城大手門と二の丸角櫓の復元工事が完了し、弘道館、三の丸周辺は歴史ある町の顔としてまちづくりが進み、これら資源を活用した観光振興の推進とまちづくり・賑わい創出が進んでいます。しかしながら、水戸市全体を俯瞰的に見ると、下市の資源活用についての取り組みも重要であると考えます。

かつて下市は商業地として栄え、水戸城下の経済を支えてきましたが、戦後経済の中心は上市へと移り、近年では郊外の大型店舗に需要が移り今では中心市街地の空洞化が著しく進んでいます。

上市地区は観光振興策が進められる一方で、下市地区はその流れから少し取り残された感があります。下市には備前堀や吉田神社など多くの歴史的建造物もあり、上市と一体的な整備を進めることで水戸市としての観光価値を高めることができると考えています。

一つには、千葉県佐原市(現香取市)のようにまちなかの水路周辺を整備し観光資源としている例を参考に、江戸の町家を再現した建物を整備し、そこで「水戸黒」や「七面焼き」といった殖産興業として水戸藩が取り組んだ生產品の販売を行い、古民家のおしゃれなレストランやカフェをPFIにて運営することで観光誘致につながれると考えます。なお、町並み整備のためには水戸市都市景観条例の備前堀地区の指定内容や基準を変更する必要もあります。

もう一つには三の丸エリアと備前堀を結ぶ散策ルートがほぼ無いに等しく、現在の歩道も狭く歩きづらいため、散策を楽しむ市民やインバウンドの回遊性を高めるための整備をする必要があります。ハミングロードと備前堀を結ぶ市道については、狭く非常に歩きづらいため、歴史的景観とともに歩行者をはじめとした道路利用者の安全対策等に配慮した道路整備、安全性・快適性が確保できるよう整備も必要です。

また、観光振興・まちづくり賑わいの創出の推進に向けて、地域が主体の一つとしての役割を進めていくためには、行政や関係する団体、自治会等との連携の強化が必要です。さらに、地元の方だけでなく、民間企業の手を借りて備前堀周辺の更なる魅力向上や地域商業の活性化が図られるよう、その調整・パイプ役となり関係機関との連携の促進を行政が図っていただく必要があります。

最後に備前堀の親水性を高め、観光資源としての価値を高めるためには本当の意味での通年導水が必要と考えます。これには数年単位での計画と予算そして関係機関との協議が必要になりますが、下市地区の観光振興策として大きなファクターになりますので検討をお願いします。

- キーワード: 地域のコミュニティがまちづくりに参画
- 通年導水
- 水戸市都市景観条例の条文や基準の変更
- PFI の活用
- 町並み整備と取り扱うコンテンツの充実
- 上市地区との回遊性

【回答No.19】 担当課：観光課, 公園緑地課, 建設計画課, 都市計画課

下市地区におきましては、備前堀をはじめ、神社仏閣などを有する歴史的情緒豊かな地区であることから、それらと調和した景観整備とあわせ、貴重な歴史的資源を活用し、SNS等による情報発信はもちろん、地域と連携しながら、商店街と地域資源との回遊性の向上を図るほか、地域の特性を生かしたまちづくりを推進しているところであります。

特に、地区の商店会や企業はもとより、小・中学校や住民など、地元組織が主体となって開催する下市タウンフェスティバルにおいては、本市も意見交換や調整の場に参画し、歴史的建造物や伝統工芸品といった下市らしい地域資源を利活用していただくよう助言、提案するほか、新たに地元企業を紹介し、参画していただくといったパイプ役も担い、地域との協働によるにぎわいづくりにも積極的に取り組んでおります。

今後とも、備前堀をはじめとする地域資源の情報発信はもとより、レンタサイクルを活用した弘道館・水戸城跡周辺地区等との回遊性向上など、地域と一体となって、地区の魅力を高め、にぎわいの創出を図ってまいります。

また、下市地区は、生活の視点から、バス交通の利便性も高く、医療機関や生活に密着した小売店等の生活インフラが充実しており、水戸市第6次総合計画において、本市の東部地区の地域生活拠点と位置づけていることから、あわせて、地域生活拠点としての特性も更に伸ばし、子どもから高齢者までが安心して暮らせるまちづくりも進めてまいります。

備前堀沿道都市景観重点地区の指定範囲や景観基準は、水戸市都市景観条例に定めた都市景観市民協定に基づき、地元住民の皆さまで構成されている備前堀景観推進協議会が主体となって平成 14 年に策定したもので、具体的には、建築物や工作物等の意匠・色彩について基準を定めており、これまで 27 件(R3.11.30 時点)の実績があります。

御要望の水戸黒や七面焼き等を活用した備前堀沿線の活性化については、庁内横断的な検討のほか地元協議会とも意見交換を行う中で現行基準のあり方等についても検討してまいります。

ハミングロードと道明橋を結ぶ南北市道のうち、浜田6号線及び三又橋を結ぶ浜田 84 号線につきましては、既に景観に配慮した歩道の整備がなされておりますが、一部、修繕等により見かけが悪くなっていることも認識しております。

また、それ以外のハミングロードと金剛橋を結ぶ浜田 83 号線及び水戸市本町子育て支援・多世代交流センター西側の浜田 86 号線につきましては、道路幅員が狭いことから、歩道の整備を行うためには、新たに用地を取得する必要がありますが、既に道路の沿線に住宅や店舗が立ち並んでいるなど、新たな歩道の整備につきましては多くの課題があります。

しかしながら御指摘にもあるとおり、道路利用者の安全性・快適性の確保は重要であることから、これらの路線について、今後も日常の道路パトロールをはじめとした情報収集を行い、道路の破損箇所等の早期発見に努めるとともに、道路の安全性・快適性が確保できるよう、計画的に適正な舗装の維持補修に取り組んでまいります。

備前堀の通年導水につきましては、桜川の柳堤堰を上げて、備前堀へ導水を行う4月～8月のかんがい期と9月～3月までの非かんがい期で対応が異なっております。かんがい期においては、ほぼ毎日備前堀は水が満ちておりますが、非かんがい期においては、河川関係の工事や備前堀の点検などが集中する時期であり、それらのために備前堀へ通水できない場合があります、備前堀は渇水となるものです。こういう場合の補助的な対応として那珂川からのサイフォン管がございしますが、那珂川の流況によって取水

ができないことが多いという状況です。今後とも、歴史ある備前堀の水辺環境の魅力向上に向け安定的な導水の確保策を検討してまいります。

(4)保和苑および周辺史跡の整備(継続要望)

〈西部ブロック〉

保和苑周辺のロマンチックゾーンには、古代から近代までの歴史的遺産が数多く点在しており、水戸市の重要な観光資源の一つとなっております。現在、同地域の魅力づくりの一環として、あじさいまつりなどのイベントが開催されているほか、駐車場や休憩スペースとして活用できる広場および桂岸寺までの参道整備、案内看板設置など、保和苑周辺の再整備を水戸市として進めていただいております。

しかしながら、依然として街路灯、駐車場やトイレなどが不足しており、観光客の受け入れ態勢が整っていない状況です。新型コロナウイルス感染症の収束後に需要増加が期待されているインバウンド観光に対応していくためにも、同地域の案内看板の増設・多言語化やトイレ・駐車場の整備、街路灯増設など、国内外からの観光客が安心して観光を楽しむことができるよう、受け入れ態勢の整備を進めるとともに、ホームページやSNSなどによる情報発信の強化を要望いたします。

また提供できる観光コンテンツの一つとして、徳川光圀公が整備した保和苑と徳川斉昭公が手がけた偕楽園にみる水戸藩主の自然への思いを観光ボランティアが説明するといった企画を作ることで、単に現地に行き説明書きを読む観光から、交流する観光によってインバウンドを呼び込むことも検討すべきです。通年での観光コンテンツを提供することで、同地域のさらなる振興・発展を図ることが可能です。

【回答No.20】 担当課：観光課

保和苑を中心とするロマンチックゾーンは、本市で唯一の万葉の遺跡である曝井や国指定重要文化財である水戸八幡宮など、訪れる人々の心に安らぎを与える貴重な緑や湧水とともに、数多くの歴史的資源を有する本市を代表する観光拠点の一つであります。

本市では、これまで、水戸のあじさいまつりの開催を通じた魅力づくりとあわせ、国道沿いの駐車場や休憩スペースとして活用できる広場を整備するほか、桂岸寺に至るまでの参道の景観整備、さらには、保和苑入口のスロープ設置など、更なる魅力向上に努めてまいりました。

また、ロマンチックゾーン内の名所や史跡を巡る散策ルートを紹介した多言語観光案内板を仁王門前に設置するほか、地元住民等で組織する保和苑周辺史跡観光連絡協議会では、散策マップの作成やスタンプラリーを実施するなど、どなたでも歩いて楽しめる回遊施策にも取り組んでいるところ です。

今後とも、インバウンド観光も見据えた観光客の受入体制の更なる強化を図るため、地元の関係者や団体との連携・協力のもと、観光客等が安心して、楽しみながら散策できるよう、本市ホームページやSNS、パンフレット等により、積極的な情報発信に努めるとともに、ハード・ソフト両面から様々な観光振興策を展開してまいります。

また、観光ボランティアの御提案については、あじさいまつりの期間中、水戸黄門愛好会による記念写真の撮影、歴史アドバイザー水戸による観光案内ガイドは毎回好評をいただいておりますことから、引き続き、貴所が取り組まれているおもてなしマイスター等のボランティア団体、関係者との連携を図りながら、官民一体となって、観光客等来苑者の満足度向上につながるような環境づくりを推進してまいりたいと考えております。

2. 資源のリノベーション「古い施設をリノベーションし観光資源としての価値を高める」

(1)小吹清掃工場跡地周辺の整備(継続要望)

〈南部ブロック〉

令和2年3月31日をもって稼働が終了した小吹清掃工場跡地の利活用につきまして、清掃事務所等跡地を駐車場として整備した上で、新しい入園口や売店等を設置する計画があると伺いました。隣接する水戸市植物公園もリニューアルしたことで市民の利用はもちろん、他県からの来訪者やインバウンドを含めた新たな集客増に向けた多角的な検討を行っているとのことですが、近隣にケーズデンキスタジアム水戸や乗馬クラブが存在するほか、既存の市民プールを改良・リニューアルした上で、青少年・若者のリゾート施設と一体となった開発が望ましいと考えます。

アスレチックやキャンプ施設、コロナ禍で注目が集まっているグランピングなど宿泊施設を設置し、自然をテーマとしたアクティビティを設けるなど、さらなる地域振興・観光振興に繋がるものと考えます。

近年、シャワーやトイレ、ベッドなどが完備されプライベート空間を維持しながらキャンプができる「グランピング」が注目されています。食事なども自室にデリバリーされ、からだ一つで手軽にキャンプができるのが魅力で、近年は全国的に開設が進んでいますので、水戸市でも検討されるよう要望いたします。

○テーマやコンセプトに合わせた施設

- ・周辺のケーズデンキスタジアムや水戸市植物園とコラボし観光資源としての価値を高められる施設
- ・そこでしか体験できないコンテンツを提供

【回答No.21】 担当課：清掃事務所、公園緑地課

小吹清掃工場跡地の利活用につきましては、地元小吹町との協議により定めたまちづくりの目標である「人と自然が共生する安心快適なまち・小吹」の実現に向け、水戸市植物公園と一体となった新たな公園を整備することとしております。

現在、跡地利活用等について、地元小吹町の皆様と協議を進めているところであり、御要望の内容についても、今後、跡地利活用基本計画の策定を進める中で検討を行い、小吹地区の活性化、さらには水戸市全体の活性化につながるよう跡地の整備に取り組んでまいりたいと考えております。

小吹清掃工場跡地の利活用につきましては、令和3年4月、植物公園の第1期リニューアル工事完了に伴い、鑑賞大温室や熱帯果樹温室等の展示内容を一新し、より魅力的なコンテンツを皆様に御提供できるようになりました。さらに、第2期リニューアル工事の中では、清掃事務所等跡地を駐車場として整備した上で、新しい入園口や売店等を設置することを計画しております。具体的には、今後策定を進める第2期リニューアル整備基本計画等の中で、皆様に何度でも植物公園へ足を運んでいただき、その魅力を楽しんでいただけるよう、展示や催事の充実に加え、御要望の内容についても民間活力の導入などを視野に入れ、更なる賑わいづくりに努め、他県からの来訪者や、インバウンドも含めた新たな集客増に向けた魅力向上策について多様な視点から検討してまいります。

(2)レイクサイドボウル跡地の利活用(継続要望)

〈情報文化部会、中部ブロック、南部ブロック〉

茨城県では偕楽園拡張部(月池地区)を活用した民間事業の公募を行い、迎賓機能を備えたパークレストランとテラスガーデンの整備を目的とした供用を令和3年度中に開始する予定としております。

千波湖西側駐車場については「千波湖を起点とした市民とインバウンドの交流」(P10)で提案いたしましたが、レイクサイドボウル跡地の再開発については、それ単体で捉えるのではなく、千波山公園少年の森駐車場、千波公園 D51駐車場を含めて体系的にとらえて計画を進めるべきです。乗用車、大型観光バスの駐車スペースを再配置し、場合によっては既存の道路の再整備も検討することを要望いたします。

ここでネックになるのが渋滞です。水戸神栖線(旧国道6号線)は慢性的な渋滞エリアです。朝晩の通勤時間帯や観梅時期の休日などは「偕楽園下交差点」や「千波山交差点」などで渋滞が発生しています。

再開発に合わせて駐車場スペースの再配置を提案しましたが、慢性的な渋滞を緩和できないのであれば、中心市街地に観光施設毎に大型バスの駐車場を整備する方法が正しいかなどいくつかの検証が必要になります。当所として大型バスの駐車スペースの増設と新たな用地の確保を要望していましたが、水戸の観光のあり方を考えるのであれば、中心市街地まで大型バスを乗り入れるのではなく、なるべく市街地外縁に大規模な駐車場を確保し、レンタサイクルやより小型のバスでテーマ毎に施設を巡るなどの独自の観光スタイルを構築することも考えるべきと思います。



【回答No.22】 担当課：公園緑地課、観光課

千波公園におきましては、市民の憩いの空間として、また重要な観光拠点として更なる魅力向上に向け、西側駐車場及び黄門像広場周辺地区において、パークPFIによる民間活力の導入を進めているところであります。一方、レイクサイドボウル跡地につきましては、西側駐車場の代替として、新たな駐車場整備を進めており、これらの取組により、偕楽園・千波湖周辺地区の便益施設が充実し、さらなる観光客の受入れが可能となり、より賑わいの創出が期待できるものと考えております。

また、懸念される渋滞の対策としまして、県道の右折レーンの拡充等を警察と協議の上実施しているところであります。今後とも、車両が円滑に通行できる道路を目指して整備を進めてまいります。

水戸観光コンベンション協会が管理運営しているレンタサイクルは、水戸駅の北口と南口、千波湖西側駐車場の計3か所が貸出拠点となっておりますが、本市を観光で訪れる方々にまちなかの回遊を一層楽しんでいただけるよう、今年度におきましては、新たなモデルコースを設定したほか、プロモーション動画を制作し、積極的な情報発信を行ってまいりました。引き続き、レンタサイクルを利用しやすい環境づくりに取り組んでまいりたいと考えております。また、イベントやまつりの開催とあわせて運行している観光漫遊バスについて、運行する時期やルート、車両など、より効果的な手法を検討してまいります。

3. 観光誘致のための整備

(1) ハード面の整備

① 観光案内所の拡充(新規要望)

〈観光サービス部会・食でまちづくり委員会〉

水戸駅周辺では、大手門や角櫓が復元されるとともに、新水戸学の道が整備されるなど、観光都市としての魅力向上が進んでいるところでありますが、今後は国内の人口減少とともに日本人旅行者も減少していくものと思われ、アフターコロナにおいては地域間での観光客誘致活動競争が一層激化していくものと考えられます。

今後より多くの観光客を取り込むためには水戸観光コンベンション協会とのタイアップにより、日本政府観光局(JNTO)が定める外国人観光案内所の認定基準「カテゴリ3」(※)を取得した新たな大型観光案内所の設置が急務であります。

その際は、現在の場所では狭隘であるため、北口あるいは南口のテナントビルに開設する必要があると思われまので、例えば北口ではマイムビル、南口では水戸サウスタワーなどが想定されます。

(※) JNTO カテゴリ3

常時英語による対応が可能。その上で、英語を除く2以上の言語での案内が常時可能な体制がある。全国レベルの観光案内を提供。原則年中無休。Wi-Fi あり。ゲートウェイや外国人来訪者の多い立地。

【回答No.23】 担当課：観光課

国内外から多くの観光客が訪れる本市の観光案内所につきましては、水戸駅改札口付近という立地を生かし、交通事業者とも連携、協力しながら、広域的な観光情報の提供をはじめ、鉄道やバス等の交通手段の案内、宿泊施設や飲食店等の紹介など、多様な情報の発信、おもてなしの拠点として重要な役割を果たしております。

また、平成 28 年度には、県内初となるJNTOカテゴリー2の認定を受け、常時職員2名で対応しておりますが、御指摘のとおり、県央地域を中心とした多数のイベントチラシや観光パンフレット等を常設していることなどから手狭となっており、施設の運営管理者である水戸観光コンベンション協会とともに、観光案内所の機能強化等について、検討しているところであります。

観光案内所が拡充されることは、訪れた観光客等の利便性の向上はもちろんのこと、交流人口の増加も期待できることから、観光振興を図る上で、有効な方策の一つとなり得るものと認識しておりますが、新たな案内所の開設費用や家賃も含めた維持管理に係る財源の確保、費用対効果等の課題の検証も必要であることから、引き続き、水戸観光コンベンション協会をはじめ、関係者との協議を重ねながら、更なる研究を進めてまいりたいと考えております。

②多言語(英語・仏語・独語・中国語・韓国語・スペイン語など)に対応した Wi-Fi 整備(継続要望)

〈観光サービス部会・食でまちづくり委員会・中部ブロック〉

上記カテゴリー3の基準により設置した Wi-Fi 設備により、利用者が選択した言語からおおよその国籍が把握でき、さらに GPS データからどのような施設に興味を持っているのか、何時間滞在したのかなどの様々な顧客データが収集可能となり、それらのデータを蓄積することにより観光施設の整備などにも活用できます。

Wi-Fi設備は官民による設置が現在も進められているところですが、現状では設置場所の情報を HP から得るしかないことから、設置場所をPRできるマップなどが必要であるとともに、さらに Wi-Fi 設備の導入を促すためにも民間事業所が Wi-Fi 設備を整備する際の助成制度の創設が必要です。

また、Wi-Fi設備の提供地域内に入った利用者に対し、観光や飲食、買物等のクーポン提供やスタンプラリーができる仕組みを構築することにより、滞留時間の確保とそれに伴う消費の拡大が期待できます。

※八王子市「Hachioji Free Wi-Fi」などの先進事例あり。

【回答No.24】 担当課：情報政策課、観光課

現在、本市におきましては、市民センターをはじめ、水戸駅観光案内所、水戸芸術館等 53 か所に Wi-Fi 環境を整備し、「IBARAKI FREE Wi-Fi」(※)として、県内共通規格により、運用を行っております。

設置場所については、水戸市や茨城県の公式ホームページに掲載しているほか、Wi-Fi 設置施設へのステッカーの掲示などにより周知を行っております。さらに、NTT東日本との連携による、外国人や観光客のための接続環境「Japan Connected-free Wi-Fi」による対応も行っております。

今後、各種観光パンフレット等への掲載など、関係機関とも連携のうえ、市内における Wi-Fi の利用を推進してまいります。

なお、Wi-Fi の整備は、市民や観光客等の来訪者の利便性を向上させることはもとより、防災・減災にも有効であり、店舗の売上増についても期待できることから、他自治体における先進事例の調査研究を進め、その利用方法や助成制度も含め、検討してまいります。

また、本市では、訪日外国人観光客の誘客に向け、宿泊や飲食、交通、土産品等観光関連事業者 63 者(令和3年 10 月現在)で構成する水戸市インバウンド推進機構(事務局:水戸観光コンベンション協会)を中心とし、官民一体となったインバウンド観光事業に取り組んでいるところであります。

現在、世界的な新型コロナウイルス感染症の影響により、渡航が制限されている状況ではありますが、コロナ収束後を見据えた受入環境の充実に向け、同機構が主催となって、外国人観光客と直接対応する民間事業者を対象としたセミナーを実施し、台湾をはじめとする最新のインバウンド情報に加え、外国人観光客の受入に関する全国の先進的な取組事例を紹介するなど、多言語対応の重要性について情報共

有したところであります。また、国内在住の外国人を招請したモニターツアーも実施し、宿泊施設や飲食店等における接客対応、案内表示のほか、滞在時間の確保や消費行動につながる仕掛けなど、外国人目線による指摘や助言をいただいたところであり、Wi-Fi整備を含む受入環境の改善、充実の必要性について、機構会員との共通認識を図ったところであります。

今後、貴所をはじめ、水戸観光コンベンション協会等関係団体の支援、協力もいただきながら、引き続き、既存の Wi-Fi 設備を含む多言語対応状況について、効果的な情報発信に取り組むとともに、他自治体における先進事例の調査・研究を行い、外国人観光客等が快適に過ごすことのできる受入環境づくりを推進してまいります。

また、外国人観光客の国籍や行動等の情報を把握することは、本市のインバウンド観光を推進していく上でも重要であると認識していることから、観光案内所はもとより、機構会員等観光関連事業者における接客時のヒアリング情報を収集、蓄積、分析し、関係者と一体となって、インバウンド観光の再開に向けた準備を進めてまいります。

※「IBARAKI FREE Wi-Fi」は、共通ロゴステッカーを掲示し、接続方法の共通化により利便性向上を図るもので、令和4年1月1日現在、県内 494 施設(うち水戸市内では公共施設及び民間施設の計 92 施設が参加)が参加しています。

(2)ソフト面の整備

①観光ポータルサイトの整備(新規要望)

〈食でまちづくり委員会〉

観光客が旅先の情報を得るにあたり、最も利用されているのがスマートフォンによるインターネット検索です。従ってそれらの入り口となる「観光ポータルサイト」の構築は観光地として必須であり、インバウンド向けの様々な発信を行うほか、インバウンドの利用に対して電子マネーなどでインセンティブを提供するなどの取り組みを行うほか、レンタサイクルや各種施設の利用など、web上から事前に行える仕組みを構築することが肝要であります。こうした付加価値を提供することで、リピーターを取り込み、通年観光に結び付けることができると考えます。

また、飲食店の多くは中小・小規模事業者であり、独自のホームページを開設していないケースも多いため、ホームページによる情報提供によって売上向上につながり、従業員雇用を含めた中小・小規模事業者への応援が可能となります。

観光振興大会をきっかけとして、水戸の隠れた食文化を発信するポータルサイトを構築し、観光を含む水戸の食文化の発展に向けて、中小企業向けの支援をお願いいたします。

【回答No.25】 担当課：観光課、商工課

本市におきましては、観光やビジネスで水戸を訪れた方々が本市の滞在を快適に、楽しく過ごしていただけるよう、飲食をはじめ、土産品や観光施設などの旅先で必要となる各種情報について、ホームページや Twitter といったSNSを活用した情報提供、紹介に取り組んでおります。また、パンフレットや観光情報誌等の紙媒体については、観光案内所はもとより、宿泊や交通事業者の協力もいただきながら、ホテルのロビーや駅のバスターミナル等に設置し、おもてなしとあわせた観光情報の案内に努めているところであります。

現在、御指摘のレンタサイクルをはじめ、まつりやイベントなどの観光関連情報については、水戸観光コンベンション協会のホームページに集約、管理させているところであり、さらに、今年度におきましては、コロナ禍であっても、水戸の土産品等の資源の周知を図るとともに、利用者の利便性向上のため、EC サイトを開設したところであります。今後、本市の観光ポータルサイトとなるよう、施設の前予約や申し込みなど、更なる機能向上を研究、検討してまいりたいと考えております。

また、御要望の「食」というコンテンツは、観光客の旅の満足度にも左右される重要な要素の一つであると認識しておりますので、水戸観光コンベンション協会のホームページを積極的に利活用し、分かりやすい情報の発信に努めてまいります。

なお、飲食店等の中小・小規模事業者に関するホームページによる情報提供につきましては、現在

実施している支援制度において、各事業者の必要に応じて実施していただけるよう、貴所をはじめ、関係団体等と連携しながら取り組んでまいります。

②キャッシュレス決済の促進(継続要望) <情報文化部会、水戸のカルチャー&スポーツ創造委員会>

令和元年度に実施された国や県主導のキャッシュレス還元事業によって、キャッシュレス化の普及が一気に進み、コロナ禍の状況の中でますますキャッシュレス化の生活が浸透することが予想されます。

観光インバウンドに関しても、観光ポータルサイトと連動して、キャッシュレス決済ができる仕組みの導入がコロナ禍で加速しています。

小規模商店は導入費用や決済時の手数料を気にして導入に前向きではありませんが、地元の金融機関とタイアップして市民も利用できる独自の電子マネーを創設すれば、インバウンドに限らず一定の利用が見込めます。ソフト面でリピーターを増やすための便利さをアピールできる施策も必要です。

一方で、キャッシュレス化を進める事業者においては、二極化が進み、キャッシュレスが導入されていない事業者は、導入業者プランの選択の煩雑さ・導入後の手数料・機器導入にも費用がかさむなど導入が進んでいないのが現状です。

今後もキャッシュレス導入の後押しには、機器導入や手数料助成が不可欠なことから、キャッシュレス化の浸透につながるよう事業者に導入・継続するための費用助成施策の実施を要望いたします。

また、高齢者のスマートフォン普及率は低いため、交通系 IC カードでも利用可能な決済端末の普及促進についても検討をお願いいたします。

【回答No.26】 担当課：商工課

本市におきましては、国や県の取組を踏まえ、キャッシュレス決済に係る推進事業として、平成30年度の梅まつり期間、県と連携の下、市内の店舗において、導入しやすいQRコードを使ったスマートフォンによるキャッシュレス決済の導入促進を図る実証実験を実施し、また、令和2年2月には、複数のキャッシュレス事業者による消費者を対象とした使い方講座を開催するなど、普及・啓発に努めてきたところであります。

今後は、市内におけるキャッシュレス決済の導入状況等を踏まえ、先進地事例を研究しながら、ポストコロナ時代におけるキャッシュレス決済の普及・促進に向けた支援策のあり方について、貴所をはじめとする関係機関等と連携し、検討を進めてまいります。

(3)観光ボランティアの育成と認定制度(新規要望) <経済政策委員会>

観光資源やその周辺だけを整備しても、インバウンドがバスでやってきてその場所だけを見て帰るのでは意味がありません。

設置された案内看板や解説付のパンフレットを見るだけでの観光ではなく、水戸の歴史を深く知り理解しているボランティアを育成し、その人たちが生の声で解説しながらインバウンドとのコミュニケーションを図る観光を考えてはいかがでしょうか。

当所では茨城国体や東京オリンピック開催に向け、ホスピタリティーの向上を目指し、水戸歴史文化検定や水戸おもてなしマイスターなどのおもてなし事業に取り組んで参りましたが、市民を巻き込んだ活動の難しさを痛感しているところです。

「水戸大好き！歴史大好き！」な方の説明は、その場所の解説だけではなく、ストーリー仕立てでの話ができるのでいろいろな話に派生し、興味深く聞くことができます。それにより観光客に感動を与え、また足を運ぼうとする動機づけになると考えます。

まずは、水戸をこよなく愛する方々を講師として招聘し、当所や水戸観光コンベンション協会、水戸国際交流協会、水戸シルバー人材センター会員などに呼びかけ、定期的な勉強会を行い、その内容を動画等で一般に配信すれば、誰でも歴史を学ぶことが可能になります。

また、観光ボランティアの認定制度を創設し、ある程度学び知識を得た上で実習を数回行い、その後2時間コースや半日コース、1日コースで周遊する推奨コースを作成して観光客と同行し、解説するような仕組みを提案いたします。

【推奨コース(案)】

- ・水戸の城下町巡り
水戸の城下町マップを片手に、観光ボランティアの説明を受けながら幕末にタイムスリップ!!
- ・弘道館・大手門探訪コース
大手門、水戸二の丸角櫓、弘道館
- ・水戸八景めぐり
水戸藩9代藩主の徳川斉昭公が定めた八つの景勝地を巡る。約90キロのコース
- ・江戸時代以前の水戸の歴史見学
河和田城跡と報仏寺(親鸞の直弟子の唯円が道場を開いたとされる場所。)
- ・天狗党の足跡をたどるツアー
弘道館・回天神社・筑波山
- ・義公烈公にゆかりのある庭園めぐり
保和苑と偕楽園

【回答No.27】 担当課：観光課

本市におきましては、市民や観光関連事業者のおもてなし意識の醸成、おもてなし力の向上を図るため、イベント等でのおもてなし活動や外国語による観光案内をしていただくことを目的とした市民観光ボランティア「水戸黄門倶楽部」を運営し、ボランティア活動を担う人材の育成に取り組んでおります。また、タクシー事業者と連携しながら、乗客へのマナーや観光案内に優れた乗務員を認定する優良タクシー乗務員認定制度を推進するほか、水戸観光コンベンション協会のおもてなし事業や貴所が取り組むおもてなしプロジェクトを継続して支援しており、市民、事業者、行政が一体となって、まち全体のおもてなし力の向上に取り組んでいるところであります。

特に、貴所のおもてなしプロジェクトにつきましては、おもてなし活動に寄与する人材の創出、育成を図る「水戸おもてなしマイスター制度」、水戸の歴史や文化、観光を学び、郷土愛を育むことを目的とした「水戸歴史文化検定」、おもてなし活動の裾野を広げる「おもてなし水戸っぼ隊」などで構成され、それぞれの取組は、ホスピタリティの醸成につながるものであることから、本市といたしましても、引き続き、積極的な支援を行っていくこととしております。

今後とも、既存事業を通じた人材育成に取り組むほか、市民や事業者、関係団体との連携を密に図りながら、観光客を温かく迎える意識の醸成、ボランティア活動に取り組みやすい環境づくりを進めてまいります。

V. 市民生活の向上に関する提案・要望事項

1. 中心市街地活性化策

(1) 中心市街地における居住環境整備(利便性向上) (継続要望)

〈中部ブロック〉

現在、中心市街地では食料品や生活必需品などの買い物に不自由する状況で、とりわけ高齢者にとっては大きな問題となっています。

令和元年は南町にビジネスホテルが開業し、交流人口が創出される機会が増えましたが、まちなか居住者のための利便性が高い施設はなかなか増えていない状況です。

引き続き、スーパーマーケットなど、居住者の利便性が高い施設の誘致について、特段のご配慮をお願いいたします。

期待される効果等

- ・居住者の利便性を高めることで、まちなか居住の推進が図られ、中心市街地の活性化につながる。

【回答No.28】 担当課：商工課

中心市街地では、平成30年5月に、南町2丁目に新設された分譲マンションの1階部分にミニスーパーが入居し、地域のニーズに即した商品を揃えるほか、オフィスワーカー等の利便性にも対応するイトインコーナーの設置など、地元住民を含む地域の方々の買い物需要に応じております。

今後とも、中心市街地の生活利便性の向上に向け、中心市街地店舗、事務所等開設促進事業等の補助制度の周知を図りながら、更なる商業施設の立地促進に努めてまいります。

(2) 定期的巡回タクシーの運行(継続要望)

〈小売商業部会、中部ブロック〉

水戸市内の路線バスは、他地域と比較すると路線数も多く停留所も数多く設置されており、利便性が高い交通機関であります。しかし、一方で、利用者の中には路線バスが乗り入れているエリアにある医療機関や商業施設への利用に移動手段の不便さを感じている利用者も一定数おります。

また市内の観光にあたり、各観光施設やスポーツ施設は点在しているため、観光客にとっては回遊が困難と見受けられます。

つきましては、郊外部と中心市街地間の移動が円滑に行えるよう、引き続きバス路線の再編と乗り継ぎ環境の整備を進めていただきますようお願いいたします。

また、路線バスが乗り入れているエリアに定期的な巡回タクシーを運行させることにより、高齢者の利便性向上と買物難民解消、かつ中心市街地活性化が更に期待できますので、消費者の利便性が高い施設を周遊する運行ルートの設定についてご検討いただくとともに、市内観光施設・商業施設・スポーツ関連施設へ自家用車以外で回遊できるバス、タクシーなどの利便性強化を要望いたします。

【運行例】

・水戸駅—病院(総合病院・個人病院・薬局・接骨院・鍼灸・歯科)—大型商業施設—銀行・郵便局、等々

【市内観光施設】

・弘道館・水戸芸術館・偕楽園・千波湖・保和苑・歴史館・中心市街地商業施設・県立武道館・アダストリア・みとアリーナ・ケーズデンキスタジアム・県庁・植物園など

【参考】

・那珂市で実施しているデマンド交通「ひまわりタクシー」

※乗り降りできるのは、登録された「利用者の方のご自宅」と、那珂市内の別途定められた乗降場所(公共施設、医療機関、金融機関、大型商業施設、接骨・整骨院、福祉施設等)および、水戸市の「水戸駅北口」「水戸京成百貨店」に限る。

期待される効果等

- ・高齢者など日常生活の移動手段に不便をきたしている方の利便性向上と中心市街地活性化。
- ・観光振興。

【回答No.29】 担当課：交通政策課

本市におきましては、公共交通のない空白地区である郊外部において、新たな移動手段として、国田地区をはじめ、現在8地区で、1,000円タクシーを運行しております。この1,000円タクシーは、病院への通院や、買い物など、日常生活に幅広く利用していただいております。最寄りの交通結節点である駅やバスターミナルまでは、運賃を半額の500円とし、公共交通への乗り換えがスムーズに行えるよう環境整備をしております。これに合わせ、郊外部と中心市街地間のバス路線の利便性を高めるため、バス路線の再編に引き続き取り組んでまいります。

観光施設を周遊する運行ルートにつきましては、本年10月から、茨城交通で、弘道館、アダストリアみとアリーナ、歴史館及び偕楽園を周遊するバス路線の運行が開始されました。

周遊ルートにつきましては、そこまでの公共交通の移動手段の確保とあわせ、それらを回遊する魅力や仕掛けづくりを同時に進めていくことが必要であると考えております。したがって、交通手段の一つであるバス路線の再編を進めるとともに、誰もが安心して移動できる公共交通ネットワークを形成のた

めの様々な手法について調査研究をしてまいります。

(3) 団体客に対応できる大型観光バス駐車場の確保(継続要望)

〈観光サービス部会〉

中心市街地においては水戸芸術館や弘道館、二の丸角櫓が整備され、水戸のシンボルとなる地区となりました。国内・海外問わず多くの観光客に足を運んでいただきたいところです。

昨年度、偕楽園公園(千波公園)については、パークPFIによる整備とあわせ、駐車場整備の検討も進めているとの回答をいただきました。

ただし、大型バスを利用した団体客が中心市街地の飲食店で食事をする際、現状(コロナ禍以前)は店の付近で乗降させ、千波湖西駐車場で待機するようにしていますが、水戸の梅まつり期間中は千波湖および偕楽園公園周辺が道路の渋滞により迂回するのに2時間ほどかかってしまうことがあります。

つきましては、観梅期間中の中心市街地を利用する大型バスの道路渋滞を緩和し、円滑に待機・迂回できるよう、千波湖や偕楽園付近は避け、水戸地方気象台の下や三の丸地区にある低未利用地、あるいは市内の各施設専用駐車場を無料で利用できるよう働きかけをお願いいたします。

期待される効果等

・海外からの旅行者は大型バスを利用した団体客が多く、観光客の受け入れ体制を整備することで、中心市街地への誘客促進に繋がる。

【回答No.30】 担当課：観光課

大型観光バスの駐車場を確保することは、多くの観光客を受け入れることが可能となり、本市への誘客促進とあわせ、団体観光客の利便性向上につながる取組の一つであると認識しております。

現在、本市を代表する観光拠点である弘道館・水戸城跡周辺地区におきましては、水戸城大手門の復元に続き、令和3年6月には二の丸角櫓の整備が完了し、官民連携の記念イベントを開催するなど、地区の魅力を一層高めているところであります。また、道路の景観整備とあわせ、弘道館東側には、多目的に使用できる広場に加え、団体観光客も受け入れることができる大型バス用の駐車場を整備し、梅まつりだけではなく、年間を通じた当該施設の利活用を図りながら、誘客促進に取り組んでおります。

さらには、レイクサイドボウル跡地や水戸芸術館東側では、新たな駐車場の整備も進めているところであることから、これら既存施設の有効活用を図りながら、観光客の更なる誘客促進、利便性向上に取り組んでまいります。

(4) まちなか低未利用地活用に向けた固定資産税の減免(新規要望)

〈食でまちづくり委員会〉

現在、まちなかではコインパーキングや空き地・空き店舗が目立ち、まちの空洞化が進んでいるように見受けられます。

特に、建屋を付帯する場所と空き地の場合では固定資産税に差があるため、コインパーキングの増加に歯止めがかからない状況となっています。

まちなかににぎわいを創出するため、空き店舗に出店するには費用負担が大きなリスクとなります。

水戸市においては、空き店舗補助金を創設して広く支援しているところではありますが、なかなか容易に出店できるものではありません。そのため、まちなかに出店を希望する者にリスクヘッジを考慮して、キッチンカーなどの移動販売車などで実験的に検証しやすい制度を設けると、交流人口を含めてにぎわいが創出されることと思われれます。

つきましては、駐車場や空き地などの低未利用地を一定期間以上活用する移動販売車の出店に際しては、低未利用地の所有者に対し、固定資産税の減免をご検討くださいますようお願いいたします。

期待される効果等

- ・まちなか満足度の向上
- ・回遊性の創出
- ・新規出店マインドの醸成

【回答No.31】 担当課：商工課

固定資産税とコインパーキングの増加の関係性、実験的に検証しやすい制度とリスクヘッジのあり方及び既存の支援制度の課題等につきましては、実態の調査に努めつつ、事業者のニーズに基づき、より現実に即した支援のあり方について、引き続き検討してまいります。

また、まちなかの活性化に資するため、低未利用地にキッチンカーなどが出店しやすいような環境づくりにつきましても、そのニーズの把握等に努めながら、貴所をはじめ、関係団体等と協議してまいります。

(5)まちなか固定資産税軽減と企業立地助成制度の改正(継続要望) <小売商業部会>

コンパクトなまちづくりを推進する上で最も考慮すべき点は、まちなかに住めば食料品、衣料品、医療など全てが簡単に手に入る利便さにあり、まちなかに住む最も大きな利点になると考えております。

つきましては、下市・上市地区の商店街のにぎわい創出の実行とこれらの生活関連事業において、次世代を担う若手事業者が出店しやすくするため、固定資産税の更なる軽減を要望いたします。

現行の「水戸市企業立地促進補助金」では事業に供する建物の床面積(500㎡)が若手事業者や小規模事業者にとってはハードルが高いため、より事業者に即した制度改正を要望いたします。

期待される効果等

・次世代を担う若手事業者が出店しやすくなることで、空き店舗・空きテナント等の利用が促進され、まちなかの賑わい創出につながる。

【回答No.32】 担当課：商工課

本市におきましては、地域経済の活性化及び雇用の創出を図るため、市独自の支援制度による積極的な企業誘致を展開しております。中心市街地における商業機能の誘致につきましても、一定の要件のもと、固定資産の取得費や改装費に対し補助を行うとともに、土地・建物・償却資産の固定資産税を3年間免除しております。

令和元年度に企業立地促進補助制度の見直しを行い、引き続き、固定資産税の免除を行うとともに、固定資産の取得に対する補助率について、これまでの5%から、新規雇用の状況に応じ、最大10%へと拡充を図ったところです。

更なる制度の改正につきましては、事業者ニーズの把握に努めながら、新型コロナウイルス感染症による影響などを総合的に勘案しながら、必要に応じて検討してまいります。

(6)空き店舗率の改善に向けた取り組みへの連携と支援(継続要望) <中部ブロック>

令和2年度の中心市街地の空き店舗率は18.0%となっており、前年比0.7ポイント改善していますが、水戸市中心市街地活性化基本計画で定められた目標値の16.0%とは大きな開きがあるのが現状です。

当所では、平成30年度から、まちづくり会社「(株)まちみとラボ」と「水戸まちなか空き店舗見学ツアー」を実施し、空き店舗率の改善を図っています。

一方、創業支援施設である「ワグテイル」では、起業・創業を目指す方への支援や創業希望者のコミュニティ形成につなげるためのイベントを実施しています。

つきましては、ワグテイルの利用者が中心市街地の空き店舗に出店しやすくなるように、「水戸まちなか空き店舗見学ツアー」への積極的な参加を呼び掛けていただくなど、当所と連携を図るとともに、さまざまな支援をお願いいたします。

期待される効果等

・中心市街地の空き店舗率の改善、商業の活性化。

【回答No.33】 担当課：商工課

ワグテイルにおきましては、創業希望者一人一人に寄り添ったきめ細かな支援を実施するとともに、若者の創業に対する機運醸成や、創業希望者のコミュニティ形成に繋げるためのセミナー等の実施を通じ、

創業希望者や若者が交流できる場づくりに注力しているところであります。

今後は、空き店舗率の改善に向けて、創業希望者等がまちなかへの新規出店につながるよう、ワグテイルの利用者に紹介していくとともに、貴所やまちづくり会社等が実施する取組などと連携を図ってまいります。

(7)市民向けポータルサイトおよび行政における電子決済システムの導入と拡充(新規要望)

＜経済政策委員会＞

内閣府が掲げる「日本再興戦略」におけるキャッシュレス決済の導入促進とスーパーシティ構想の実現に向けて全国に先駆けて、市民生活と行政サービスの向上のために水戸市独自の電子決済システムの導入を提案します。

コロナ禍で消費者がキャッシュレス決済を利用する機会は確実に増えていますが、水戸市内の商店では導入費用や決済時の手数料などを考えて導入が進んでいません。

令和元年の消費者庁の調査では、キャッシュレス決済について、「利用する」「ときどき利用する」と答えた方が全体の8割弱にも上ります。

決済手段としてクレジットカードという回答が一番多く、次いで交通系以外の電子マネー、そして交通系電子マネーとなっています。

一方、少し古いデータですが2015年の世界銀行の統計によると、キャッシュレス決済が進んでいる国は韓国で実に89%にもおよび、次いで中国が60%、カナダ、イギリスと続きます。日本はこの時点で18%強に留まっています。

経済産業省も日本のキャッシュレス決済比率を上げる計画を立てています。

水戸市も窓口での発行手数料決済に電子マネーが利用できますし、税金もクレジットカードでの決済が可能になりました。しかしほとんどが、手続きする場所によって利用できる決済方法はばらばらです。コンビニエンスストアで納税処理する場合は、クレジットカードが利用できません。また公共施設の利用も現金決済がほとんどです。

行政サービスの向上と窓口業務の負担軽減のために、水戸市が提供する全てのサービスで電子マネーによる決済を可能にすることが重要と考えます。そしてスーパーシティ構想実現のため、行政サービスと民間の商取引などにも利用できる水戸市独自の電子マネー導入を検討してはいかがでしょうか。

【具体案】

○みとちゃん電子マネー(仮称) ※以下のサービスを付与する。

- ・少額の決済と一部の公共施設での身分証としての機能。
- ・まちなかで電子マネーとして利用、行政サービスの利用料金の決済。
- ・公共交通機関の決済(主要2社茨城交通と関鉄バスでは電子マネーに互換性がない)に利用できる。
- ・水戸市に住民票があれば誰でも作成できる。
- ・市立図書館などの貸出カードとして利用。
- ・現在公共施設を利用する場合、当該施設の窓口で申し込みと利用料金の支払いをしなければならないが、水戸市のポータルサイトを充実すれば、申し込みと決済が可能になる。
- ・ポータルサイトから住民票や印鑑証明の発行手続きと決済、受け取り場所の指定が行える。

期待される効果等

- ・市民サービスの向上
- ・市役所窓口業務の簡素化と煩雑さの改善など

【回答No.34】 担当課：情報政策課、商工課

本市におきましては、市民サービスの向上を図るため、時間と場所を選ばずに税金等を納付できるオンラインによるクレジット納付やスマートフォン決済、窓口での証明書の発行手数料の電子マネー決済な

ど、各種キャッシュレス決済の導入を進めております。

行政サービスに利用できる本市独自の電子マネー導入は、様々なサービスの一元化のメリットが考えられる一方で、市民ニーズや既に導入している民間サービスからの切替え、費用負担等の課題もありますので、調査研究を進めてまいりたいと考えております。

行政のデジタル化は時代の課題であり、申請・届出などの手続きのデジタル化やSNSを活用した情報発信に重点的に取り組むこととしており、その中で、保険料や使用料等のキャッシュレス化につきましても、推進に向けた検討を進めてまいります。

まちなかでのキャッシュレス決済の導入促進につきましては、市内におけるキャッシュレス決済の導入状況等を踏まえ、先進地事例を研究しながら、貴所をはじめとする関係機関等と連携し、検討を進めてまいります。

2. 環境対策

(1)千波湖および周辺河川の水質浄化(継続要望)

〈まちの資源活用委員会〉

千波湖及び周辺河川では、毎年アオコが発生し、環境・景観を阻害するばかりでなく、様々な利活用にも悪影響を及ぼしています。

当所でもこれまでにアオコ調査をはじめ各種実験事業を行うなど、アオコを抑制し、きれいな千波湖を取り戻すための環境対策事業等を展開してきました。

霞ヶ浦導水事業による千波湖への導水の実現が目前となり、千波湖の水質浄化にも大きな効果が期待されます。

そこで導水完成後には、千波湖の水質やアオコ等のモニタリングを通じた検証が重要となります。

検証体制の充実を図り、一日も早くアオコのない千波湖の実現のために必要な対策を講じるよう要望いたします。

期待される効果等

- ・これまで水戸市をはじめ千波湖の水質改善については、さまざまな取り組みが行われているものの、決定的な効果は表れていない現況である。
- ・また、当所においてもこれまでに水質浄化実験、アオコ調査等を行ってきた経緯があり、同事業を取りまとめた報告書においても、導水運用の早期実現に対して提言しており、アオコのない千波湖への期待は高まっている。
- ・検証体制を充実することで必要な対策を講じることが可能となり、水質浄化の早期実現につながる。

【回答No.35】 担当課：公園緑地課

現在、桜川から千波湖へ導水するための施設整備を県と市において進めているところであり、令和3年度中の完成を目指しております。当該工事の完了により最大毎秒3トンの清浄水の導水が可能となり、これはおよそ2日で千波湖の水が入れ替わる量であることから、水質浄化の効果を大いに期待しているところであります。

なお、効果検証のためのモニタリング等の実施方法につきましては、国・県・市で引き続き検討してまいります。

(2)大塚池周辺および成就院池流出口の水環境整備(継続要望)

〈西水戸ブロック〉

大塚池は茨城百選にも選ばれた景勝地であり、冬には白鳥が飛来するなど年間を通じて多くの市民が訪れる水戸の自然資産であります。

水戸市においては地下水や道路上の降雨水の流入等のあらたな水質改善策も実施していると伺っておりますが、さらなる水質浄化策の検討、推進をお願いいたします。

昨年実施されました民間企業等との共同事業によるアオコ除去が行われたとのことですが、効果は

限定的であり、引き続き改善が求められております。

また、成就院池流出口の水環境については長年要望しておりますが、国道50号バイパス南側の水路については未整備となっており、溜まった水からは羽虫や悪臭が発生している現状です。U字溝を設置していただくなど早期の実現をお願いいたします。

【参考写真】大塚池の現況写真(令和3年6月撮影)



▲大塚池南岸

アオコが水中に浮遊しており、小枝周辺など一部に集積が見られる。



▲大塚池北岸

井戸水の流入設備(流入量は少なく効果は限定的)

期待される効果等

- ・市民の憩いの場である大塚池の水辺環境整備により、豊かな自然環境による地域活性化が期待できる。
- ・成就院池流出口、国道50号周辺の水環境整備により、当該地域の自然環境が改善され、地域の魅力が高まることが期待できる。

【回答No.36】 担当課：公園緑地課、下水道管理課、道路管理課

大塚池の水質改善につきましては、重要な課題として認識しており、地元の皆様と水質改善の方策について協議を重ねながら改善に向けた取組を進めているところであります。

今後も、民間企業等との協働事業によるアオコ除去実験や、井戸からの地下水利用、大塚池南門付近の道路雨水の引き込みなど、各種施策を継続するとともに、大塚池の良好な水辺環境に向け、水質浄化の手法についてさらなる検討を進めてまいります。

大塚池周辺の公共下水道整備につきましては、整備が完了しており、成就院池周辺につきましても、整備を進めているところであります。

良好な水辺環境の形成を図るため、今後も継続して整備を行うとともに、整備済みの区域におきましては、公共下水道への接続に関する啓発活動を行い、より一層の接続の促進に努めてまいります。

国道50号より南側の水路敷地につきましては、構造物が未整備となっております。また、水路の境界も明確でなく、水が滞留している箇所も見受けられました。このことから水路の整備を検討するとともに水質の向上のため、関係機関と連携して道路施設の維持管理を行ってまいります。

3. 基盤整備

(1)「ケーズデンキスタジアム水戸」の観客席増設の早期実現および渋滞の緩和(継続要望)

〈水戸のカルチャー&スポーツ創造委員会〉

「ケーズデンキスタジアム水戸」の整備については、競技団体等と協議を行いながら整備内容やスケジュール等について検討していくとの回答をいただいておりますが、早期の実現に向けて具体的なスケジュールの策定をお願いいたします。

また、渋滞対策につきましては、引き続き適切なアクセスルートの設定と誘導方策、公共交通機関の利用推進に向けた取り組みをお願いいたします。

期待される効果等

・スポーツ振興および集客による賑わいの創出。

【回答No.37】 担当課：体育施設整備課

ケーズデンキスタジアム水戸の整備につきましては、市民の競技力の向上やスポーツコンベンションの拠点として、陸上、サッカー、ラグビー等さまざまな競技に、より活発に利用されるよう、より集客力が向上するよう、競技団体等と綿密な協議を行いながら、施設の機能強化について検討してまいります。スケジュールについては、水戸ホーリーホックのスタジアム構想の進捗状況を十分に確認しつつ、検討してまいります。

また、渋滞対策につきましては、来場者の交通手段や交通ルートの確認を行うとともに、関係機関や主催者と連携し、公共交通の促進や駐車場の確保等に努めてまいります。

(2)「アダストリアアリーナみと」から桜山駐車場への遊歩道の設置(アクセス性向上)(継続要望)

〈卸商業部会〉

いばらきロボッツのホームタウンでもある「アダストリアアリーナみと」は施設改修によりプロスポーツのみならず、様々なイベント、コンベンション機能が期待されており、今後ますます活用されるものと考えております。

しかしながら開館時からの課題として、駐車場の数がたびたび取り上げられており、特にプロスポーツ観戦時や大きな大会の際にはすぐに満車となり、近隣の駐車場への誘導が図られております。このうちアリーナに近接し、収容台数の大きい「桜山駐車場」はアリーナの第2駐車場としての機能を有しており、試合時には多くの方が同駐車場を利用されています。(シャトルバスが運行)

ただし、シャトルバスに関しては、道路事情やルートの都合により利便性が低いと見受けられます。また、徒歩で移動する際には偕楽園(本園)と県立歴史館を通過することも想定されますが、施設の有料化や閉園時間帯の通行不可などが懸念されており、同駐車場からアリーナへのアクセス性の改善が必要と考えます。

つきましては、桜山駐車場から偕楽園公園(本園外周部)の常磐線沿いに遊歩道を設置し、本園を通らない形でアリーナ近くまで徒歩で移動できるルートを構築するよう提案いたします。(地図参照)また、桜山駐車場と偕楽園を結ぶ歩道橋(梅桜橋)について、桜山第3駐車場方面への昇降階段の設置も併せて要望いたします。

本整備により偕楽園公園に隣接する沢渡川緑地へのアクセス性も向上するため、一体的な都市公園の魅力向上に寄与するものと期待できます。

期待される効果等

・アクセス性の向上により、ロボッツ観戦をはじめ各種イベント時の利便性が高まり、中心市街地の賑わい創出につながり、歩道橋整備により園内の回遊性も高まることが期待できる。また、偕楽園拡張部に沢渡川緑地からの直接アクセスが可能となり、偕楽園公園全体の魅力向上につながる。

【回答No.38】 担当課：体育施設整備課

アダストリアみとアリーナにつきましては、茨城ロボッツのホームゲームをはじめ、数多くのスポーツ大会に加え、成人式などスポーツ以外のイベントも開催されており、多くの市民に御利用いただいております。

大規模イベント開催時にも対応できる円滑な交通アクセスを確保することが課題であると認識しており、混雑緩和策としまして、茨城ロボッツのホームゲームなど、一部のイベントにおいてアダストリアみとアリーナの駐車場を有料とする他、イベント主催者と連携し、公共交通機関や自転車の利用促進

を図るとともに、茨城県と協議したうえで桜山駐車場、さらに周辺の時間貸し駐車場等の活用促進など、一定の時間内に、アダストリアみとアリーナへの車両の集中を抑える取組を行っております。

常磐線沿いの桜山駐車場とアダストリアみとアリーナを徒歩で移動できるルートにつきましては、大規模イベント等の主催者の要望を踏まえ、施設管理者である茨城県と調整してまいります。

(3)50号バイパス河和田南交差点に係る県道玉里水戸線(県道59号線)の右折車線および右折矢印信号機の新設・道路整備(継続要望)(別紙有) <西水戸ブロック>

国道50号バイパス河和田南交差点は1日を通して交通量が多く、近隣店舗への出入りが阻害されるなど周辺店舗への影響が見られます。また右折時に信号無視をする車もたびたび目撃され、すでに横断を始めた歩行者や自転車に気づかず事故が起きかけたとの報告も寄せられていることから、歩行者の安全確保のためにも右折車線拡幅整備および右折矢印信号機の新設について早期着工を要望いたします。

なお、同地区の道路は、雨水が溜まりやすく冠水することが多く、時期によっては悪臭が発生しています。周辺には、飲食店もございますので、道路整備、下水整備もあわせて要望いたします。特に信号機の設置については、茨城県公安委員会への働きかけをお願いします。

期待される効果等

- ・交通渋滞の緩和による近隣店舗への誘客改善
- ・交通事故の減少による安心安全な街づくり

【回答No.39】 担当課：建設計画課、生活安全課

右折車線の整備は道路管理者、信号機の設置は茨城県公安委員会と役割を分担して整備をしているところであり、これまでも、道路管理者である茨城県に対して、継続的に道路拡幅整備の要望をしてまいりました。

御要望いただきました玉里水戸線の「河和田南交差点」付近の整備につきまして、県では市内において数多くの県道整備を順次行っているところであり、当該箇所の整備着手の予定は現在のところ未定であるとのことです。

しかしながら、当該交差点の渋滞解消は、道路利用者の安全性の向上、ひいては市内都市交通の円滑化のため重要な事項であることから、引き続き、県との調整を密にするなどして、現在整備中の県道整備事業の進捗をみながら当該路線の事業化への検討を働きかけるとともに、茨城県公安委員会に対しても、右折車線拡幅に併せた右折矢印信号機の設置が可能か、現地交通量の調査の実施などの対応を要望してまいります。

当該交差点は、国道50号バイパスと交わる交差点であり、周辺には各種店舗も多いことから、週末や通勤時間帯を中心に通行車両が多く見受けられます。

右折矢印信号機の設置につきましては、右折レーンの新設が条件となりますが、渋滞解消策としてのみならず交差点の安全対策としても必要であると認識しておりますので、本市といたしましても、道路管理者である茨城県や交通規制の窓口である水戸警察署に働きかけてまいります。

また同地区、国道50号バイパス「河和田南交差点」南側付近の県道玉里水戸線(県道50号線)における御要望箇所の道路冠水につきましては、現在、浸透式の側溝が部分的に整備されておりますが、ゲリラ豪雨時には雨水が排水しにくい場合がありますので、当該路線の道路管理者である茨城県に対し、路面排水施設の整備を要望してまいります。

(4)県道赤塚馬口労線に係る交差点の混雑緩和および都市計画道路3・3・2号中大野中河内線の早期整備と松ヶ丘交差点から新原三差路間の歩道整備・安全確保(継続要望) <西部ブロック>

常磐大学方面の自由が丘から続く県道赤塚馬口労線は、国道50号との自由が丘交差点において、朝夕の通勤時間帯に重なる一定の時間、右折待ち車両による渋滞が多発しています。

それにより、上市87号線と県道との交差点では、県道の車線(自由ヶ丘交差点へ向かって左車線)が右折渋滞により塞がれているため、上市87号線から右折で出ることが困難な状況が続いており、年々渋滞が悪化しています。

つきましては、該当路線に設置されている信号機設定の最適化および上市87号線と県道の交差点に現在設置されている感応式信号機の設備入れ替えなど、円滑な交通に必要な対策を関係機関と協議・連携の上、実施していただき、渋滞の迅速な解消につなげていただきますようお願いいたします。

また、松が丘交差点から新原三差路間の歩道が狭い上に排水溝蓋の設置が不安定かつ、隙間がある箇所(カラオケ館西原店前など)があり歩行者にとって危険な状態となっております。

該当路線の渋滞緩和のため、都市計画道路3・3・2号中大野中河内線の早期整備実現とともに松が丘交差点、新原三差路間の歩道整備および安全確保を併せて要望いたします。



▲写真1



▲写真2



▲写真3

【写真1】

歩道が狭く、電柱・標識などが設置されている箇所では、歩行者が行き違うのが困難なほど。

(カラオケ館西原店周辺 R3.06.28 撮影)

【写真2】

排水溝蓋に隙間があり、ハイヒールや白杖などがはまる可能性があり危険。

(カラオケ館西原店周辺 R3.06.28 撮影)

【写真3】

一方で向かい側の歩道では隙間を埋めるなど対策が取られている。(カラオケ館西原店向かい側の歩道 R3.06.28 撮影)

期待される効果等

・渋滞混雑の緩和による定時性・速達性および松が丘交差点から新原三差路間における歩行者の安全確保。

【回答No.40】 担当課：生活安全課、建設計画課、道路建設課

自由ヶ丘交差点付近では、朝晩の通勤時間帯を中心に著しく交通渋滞が発生し、それに伴い、市道上市87号線においても右折が困難であるため、車両の渋滞が見受けられるなど、近隣の方々を含め不便を感じている状況にあると認識しております。

自由ヶ丘交差点や県道赤塚馬口労線と市道上市87号線が交わる交差点については、渋滞緩和に向けた交通規制対策を所管する警察に要望してまいりましたが、未だ解決には至っていない状況です。

引き続き、自由ヶ丘交差点に設置されている信号機の時差式設定時間の変更や周辺の信号機との連動など、交通の円滑化が図れるよう、警察や道路管理者等の関係機関と協議を重ねてまいります。

県道の管理者である茨城県に確認したところ、渋滞を緩和させるための当該路線の道路改良・交差点改良等の計画はないということです。

その中で、現在本市においては、当該路線の西側に、都市の骨格となる都市計画道路3・3・2号中大野中河内線の松が丘工区として、国道50号から県道赤塚馬口労線までの延長796mの整備を進めており、これが完成すれば、当該路線の渋滞も緩和されるものと考えております。

整備状況としましては、国道50号から幹線市道23号線(上水戸・赤塚線)までの区間を令和3年に暫定供用開始しており、令和4年度より常磐線上空に橋りょう架設工事を行い、橋りょう架設後に残区間の道路築造を行う予定となっております。

松が丘工区が完成すると、既に供用開始している見和工区と接続することとなり、国道50号から幹線市道2路線と県道赤塚馬口労線を跨ぎ、県道水戸岩間線を連絡する幹線道路となり、地域間をつなぐネットワーク機能の強化、また、歩道の整備によって歩行者の安全性も十分確保されることから、非常に重要な都市計画道路としての認識をしていることから、市といたしましても、今後も早期完成を目指し、整備を進めていく予定であります。

都市計画道路の整備には相当の年数を要しますが、当該箇所の混雑緩和は、地域の皆様の安全で快適な道路利用のため、とても重要な事項であることから、都市計画道路整備の進捗を見極めながら、関係機関と連携し、市道上市87号線における交通規制や注意喚起等の安全対策について、交通管理者をはじめとした関係機関協議を行いながら、可能な対策を検討してまいります。

なお、国道50号の松が丘交差点から新原三差路間の歩道整備につきましては、道路管理者であります国へ貴重な御意見として伝えるとともに、側溝蓋の隙間の対応をはじめとした安全確保につきましても、必要に応じて国と協議してまいります。

(5)ヨークタウン水戸周辺の渋滞緩和措置(継続要望)

〈自動車・交通部会〉

本件につきましては昨年度も要望いたしました。元吉田町の「ヨークタウン水戸」にはたくさん的人气店が出店しており、平日休日ともに多くの来店客で賑わっているところですが、それに伴い周辺の道路は渋滞を引き起こしているような状況が見受けられます。

つきましては、渋滞を緩和するための措置として、買い物客で混雑する朝夕の時間帯には周辺道路にある信号の時間設定の変更をお願いいたします。これにより、周辺道路のみならず、一本隔てた道路の渋滞緩和にも繋がるものと考えられますので、関係機関と連携の上お願いいたします。

期待される効果等

・信号の時間調整により、周辺道路の渋滞が緩和され、業務(作業)の効率が図られる。

【回答No.41】 担当課：生活安全課

当該地域におきましては、各種店舗や大型商業施設が開店したこともあり、周辺道路では、交通量が増加している状況であります。早期の渋滞緩和に向け、周辺交差点における青信号の時間設定変更や右折矢印信号機の設置について、信号機を所管している水戸警察署に対し要望を行い、令和2年度には、米沢陸橋高架下の交差点に、右折矢印信号機が設置されたところです。

当該地域の信号機は、道路の交通情報を収集し、分析を行うとともに、各交差点の信号機に的確なタイミングを指令する地域制御システムが採用されております。そのため、特定した信号機の青信号の時間を長くし、渋滞車両を多く流すことにより、他の箇所において新たな交通渋滞が発生する恐れがあるなど、慎重な対応が必要であると同っております。

引き続き、周辺の信号機と連動した最適な時間設定等を水戸警察署と協議しながら、早期の渋滞解消に努めてまいります。

4. 生活安全対策等

(1) 中心市街地における防犯カメラの設置、設置助成金の創設(継続要望)

〈小売商業部会、卸商業部会、情報文化部会、中部ブロック〉

中心市街地の商店街では、夜間に落書きをされたり、窓ガラスを壊されたりするなど、被害が出ていることから防犯カメラの設置要望が出されています。

現在、水戸駅や大工町の繁華街などに57台、市民センターや学校をはじめとする公共施設を含め約800台の防犯カメラが稼働しているとのことですが、稼働と合わせ管理センターなどを設置し、一括でモニタリングすることで、更なる防犯対策に繋がることに加え、頻発する自然災害時における防災対策にも有効活用できると考えます。

また、コロナ禍においては空き巣などの犯罪が繁華街では増加しており、警察から私設の防犯カメラの画像データ提供依頼も増加しているとお聞きしています。

つきましては、安心安全なまちづくりの観点からも、防犯カメラの設置については、全体をグランドデザイン化し、定期的に一定数の設置を継続することと一括で管理をすることが、犯罪の抑制力をより高めることにつながりますので、毎年継続的に防犯カメラを設置いただくことを要望いたします。併せて、水戸市として効果的な設置場所として検討されている場所と今後の実施計画などの提示をお願いいたします。また、近年、民間で進む防犯カメラの設置についても、より多くの事業所で設置が進むよう、設置に関する助成金の創設を要望いたします。(例:宇都宮市など他都市の先進事例あり)

期待される効果等

- ・防犯カメラの設置推進により中心市街地における犯罪抑止効果が期待でき、安心、安全なまちづくりが実現でき、災害時にも有効活用できる。また民間事業者の設置推進を後押しすることで、事業者負担の軽減が期待できる。

【回答No.42】 担当課：生活安全課

防犯カメラにつきましては、犯罪による被害の未然防止や施設の適正管理等を目的として、官民を問わず設置が進んでいる状況にあります。

本市におきましては、人通りが多く防犯上も重要な場所として、水戸駅・赤塚駅・内原駅周辺や大工町の繁華街などに昨年度までに58台、市民センターや学校をはじめとする公共施設を含めると約800台の防犯カメラを設置しており、捜査機関への画像データの提供はもとより、市民の皆様への安心感の醸成や犯罪の未然防止につながるなど、一定の効果を得ていると考えております。

今年度は、警察との協議により、大工町周辺に防犯カメラ4台の増設を予定しており、今後につきましても、警察や関係機関などと十分に協議しながら、効果的な設置場所等を継続して検討し、整備を進めてまいります。

また、防犯カメラの助成制度の創設につきましては、市民と行政の協働による防犯カメラの設置を促進し、安全対策の向上にもつながることから、他の自治体における先進事例を調査研究し、制度の導入について引き続き検討してまいります。

(2) 下市周辺地区における防犯カメラの設置(継続要望)

〈東部ブロック〉

防犯対策の一環として、浜田・大野学区にある公立幼稚園・保育所・小中学校周辺の通学路およびハミングロードへの防犯カメラ設置について継続要望いたします。

近年、身近な場所での犯罪が多数起こっており、防犯対策の一環として、防犯カメラの設置は犯罪抑止には効果的で、犯罪発生時においても捜査の迅速化と二次被害の防止に役立つものと考えております。東部ブロック地区では、東台交番前の交差点のみ防犯カメラが設置されており、他は商店街や民間企業で各々が設置している状況です。

学校、地域の見守り活動を補完する意味でも、浜田学区・大野学区にある公立幼稚園、保育所、小学校、中学校周辺の通学路に防犯カメラを設置いただき、安全確保と地域防犯の強化が図られますよう要望いたします。

ハミングロードへの防犯カメラの設置につきましても、安心・安全で快適な環境の整備は、商店街の

誘客や街の活性化にもつながるとともに、居住環境の向上も図られることから何卒善処されますようお願いいたします。

また駅南大橋から桜川堤防の遊歩道へ降りる橋のたもとには、ソーラー式防犯灯が設置されておりますが、千波湖へつながる遊歩道には防犯灯等は設置されておられません。一般歩行者の他、千波湖へ向かうウォーキングを楽しむ市民の姿も見られますので、安全確保・犯罪抑止のために遊歩道への防犯灯の設置を要望いたします。

期待される効果等

・犯罪の予防や未然防止、犯罪発生時の捜査の迅速化や二次被害の防止に役立ち、居住環境の向上による定住人口増加および周辺商店会のにぎわい創出・経済効果が期待できる。

【回答No.43】 担当課：生活安全課

防犯カメラにつきましては、犯罪による被害の未然防止や施設の適正管理等を目的として、官民を問わず設置が進んでいる状況にあります。

本市におきましては、人通りが多く防犯上も重要な場所として、水戸駅・赤塚駅・内原駅周辺や大工町の繁華街などに昨年度までに58台、市民センターや学校をはじめとする公共施設を含めると約800台の防犯カメラを設置しており、市民の皆様の安心感の醸成や犯罪の未然防止につながるなど、一定の効果が現れていると考えております。

今年度は、警察との協議により、大工町周辺に防犯カメラの増設を予定しており、今後、設置する場所につきましては、警察や関係機関などと十分に協議しながら、効果的な設置箇所等を継続して検討し、整備を進めてまいります。

また、桜川堤防の遊歩道への防犯灯設置につきましては、河川管理者であります国と協議を行ってまいります。

(3)見川小学校周辺地区の交通整備(新規要望)

〈南部ブロック〉

現在、見川小学校周辺エリアでは、朝晩の通勤時間帯に大勢の児童が狭い歩道からはみだしそうに通行しています。現状では道路の拡幅は難しいと思いますが、児童の通学時間帯における一方通行化等、交通状況改善を提案いたします。

特に表町交差点から見川小学校入口の交差点までだけでも一方通行の時間を設けるなどし、児童をはじめとする地域住民が安心して利用できるよう要望いたします。

期待される効果等

・児童の安全を守り、周辺地域に住まう人々が安心して暮らせるようになる。交通状況改善により渋滞が緩和され、周辺地域へ足を運ぶ人の増加に伴い地域全体の活性化に繋がる。

【回答No.44】 担当課：生活安全課

一方通行や通行止めなどの交通規制に関することにつきましては、警察の所管となっており、御意見のありました時間帯の交通規制につきましても、沿線の皆様の総意に基づき、警察に対して規制の要望を行うこととなります。

当該路線は、御指摘のとおり、朝晩の通勤時間帯を中心に交通量が多く、付近の小・中学校の通学路として指定されており、児童生徒の通行も多い路線となります。本市としましては、警察や道路管理者などの関係機関と連携・協議し、登下校時の児童生徒の交通事故防止に向けて、さらなる道路の安全性の確保に努めてまいります。

(4)笠原小学校周辺エリアの交通状況改善について(継続要望)

〈南部ブロック〉

現在茨城県庁周辺は新興住宅が立ち並び、急激な人口の増加が見られます。周辺の交通量が増え渋滞が常態化しているほか、笠原小学校付近のエリアでは、徒歩で通学している児童が交通事故の危険にさらされている状態です。周辺の交通整理や横断歩道の設置、歩道溜りの整備など、安全対策を要望いたします。

期待される効果等

・交通整理や歩道の整備により、安心・安全で快適な歩行空間が確保され、交通事故の減少などの効果が期待される。また、関係路線に関わる地域の経済効果の向上が見込まれる。

【回答No.45】 担当課：建設計画課

御要望のありました笠原小学校周辺の道路につきましては、平成27年に笠原小南西の信号箇所には歩道溜りを設置、平成29年には南方の市道笠原178号線に交通管理者協力のもと横断歩道を設置しており、今年度につきましても、笠原小学校南東の交差点の歩道に防護柵を設置する予定であるなど、必要な安全対策を講じております。

さらには、令和2年に幹線市道14号線において歩道の舗装修繕工事を実施するなど、通学児童をはじめとした道路利用者の快適な歩行の確保に努めているところであり、今後も笠原小学校付近のエリアにおける道路利用者の安全性・快適性が確保できるよう、交通管理者、学校関係者、道路管理者と連携し、児童の安全な歩行者空間の確保に努めていくとともに、日常の道路パトロール等により適正な維持補修に取り組んでまいります。

(5)高校生の自転車マナー向上について(継続要望)

〈自動車・交通部会〉

本件につきましては例年要望しているところですが、依然としてスマホを片手に自転車で走行したり、周囲の状況を確認せず歩道から車道への急な飛び出しや細い道でも集団で二列に並んで走行するなど危険な運転をする高校生が見受けられます。

車両と自転車の事故は、状況にもよりますが多くの場合自転車側が被害者になるため、各社ドライバーには自転車には十分注意するよう呼び掛けていますが、自分本位の身勝手な走行をする高校生が見受けられます。

自転車はいつでも自由に移動ができとても便利な乗り物である反面、油断や無理な走行をすることによってとても危険であるということを理解してもらうためにも、交通安全教室の定期的な開催や、安全への意識向上を図るビデオ上映や意見交換など、学校や警察など関係機関と連携して実施していただきますよう要望いたします。

期待される効果等

・公共交通ルールを若い世代が学び、交通事故防止につなげる。また、道路を利用する上でのマナーを学び、周囲の人々への配慮や気遣い、感謝などについても学ぶ機会とする。

【回答No.46】 担当課：生活安全課

本市といたしましては、季節ごとの交通安全街頭キャンペーンや定期的な立哨活動、自転車等駐車場における啓発など、あらゆる機会を通じて自転車の安全利用を呼び掛けております。

また、高校生への交通安全教室につきましては、県警察と学校で連携して実施しており、自転車を安全に利用していただくよう、交通安全意識の啓発を図るとともに、自転車の点検整備の重要性や自転車事故に備えた保険の加入などについても周知しております。

今後とも、交通安全活動を通して自転車の安全利用を推進するとともに、さらなる交通ルールの遵守と交通マナーの向上に取り組んでまいります。

(6)訪問介護における駐車許可事務手続きの更なる簡素化と周知(継続要望) 〈社会サービス部会〉

水戸市では、第7期高齢者保健福祉計画介護保険事業計画を策定し、自立支援・重度化防止に向けた取り組みの推進や医療・介護の連携、地域共生社会の実現へ向けた取り組みなど、市ならではの取り組みを実施するなど内容の充実を図られているかと存じます。

令和2年度の要望に対する回答では、「市営住宅の駐車スペースについては、入居者用として設置しているため、それ以外のスペースを設置できず、車両の出入りに注意しながら転回スペース等を利用するようお願いいたします」とのことでしたが、訪問先に駐車場所がないために駐車禁止場所に駐車せざるを得ない場合、状況に応じて警察署長の駐車許可を受けることが可能であるかと存じます。ただ、これは地域の事業者には未だ十分に認知されておらず、活用しきれていないように感じております。

また、その際の申請書類提出においては、既に簡素化は図られていることと存じますが、書類の内容について細かい指摘がなされ何度も警察署を往復する手間がかかり、その手続きの煩雑さから、申請自体に抵抗があるという声もあがっております。特に小規模事業者は、申請書類の作成や提出へ出向くことに時間を割くことができません。

市営住宅等においてスムーズな介護・医療サービスを行うため、水戸市におかれましても、受付方法を広く周知することで明確化し、また県警察等の関係機関へのはたらきかけの上、どの事業所でも簡単に、そして安心して訪問介護に専念できるよう対策を講じていただきますようお願いいたします。

期待される効果等

- ・駐車場所が無いという理由による訪問拒否や対応遅れの減少。
- ・介護する側もされる側も安心して生活できる地域づくり。

【回答No.47】 担当課：介護保険課

御質問の件につきましては、「訪問診療等に使用する車両に係る駐車許可の周知について」(平成31年2月13日付警察庁交通局交通規制課理事官通知)にて各道府県警察に対して、駐車許可制度の簡素合理化について周知を図るとされているところであります。各事業所におかれましては、県警察の定める手続に則った対応をお願いします。

(7)『みとっ子お仕事探検隊』への協力・支援について(継続要望) 〈水戸を担う次世代育成委員会〉

水戸を担う次世代育成委員会では、子ども達の職業選択の視野を広げるとともに、地元への就業意欲向上を目的に、市内小学生を対象とした職場体験事業「みとっ子お仕事探検隊」を平成30年度から実施しております。

本事業は、会員組織である商工会議所のチャンネルを活かし、子ども達に水戸市の地域産業を体験してもらうことで机上では得ることのできないキャリア教育を実践し、職場体験を肌で感じてもらう貴重な時間となります。

しかしながら、昨年度「第3回みとっ子お仕事探検隊」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催の中止を余儀なくされ、その代替事業として「みとっ子お仕事探検隊」のwebページを作成して過去の活動報告などを情報提供し、広報PR活動に繋げました。

また、今年度は、お仕事探検隊の動画をWEBページに公開するとともに、コロナ禍でのキャリア教育の補足的活用として、学校での授業の教材となるような動画の公開を企画、検討しております。

つきましては、本事業の継続実施により、産学連携を推進するとともに、地域一体となった教育支援につなげられるよう、引き続きご支援・ご協力を要望いたします。

期待される効果等

- ・学校の授業の一環として地元企業の認知度アップとキャリア教育の充実化に寄与し、学校・企業・地域一体となった教育支援に繋がる事業となることが期待できる。
- ・仕事に対する関心を育み、また自分の将来を考えてもらえる機会を小学生に提供することによって、水戸への関心・愛着心を高め、地元での就業意欲向上が図れる。

【回答No.48】 担当課：教育研究課

本市におきましては、職場体験学習を「水戸スタイルの教育」の一つである「キャリアプラン」に位置付け、貴所をはじめ、関係各所の協力のもと、各学校に職場見学や職場体験等の協力を得られる事業所の情報提供をしながら、キャリア教育の視点から教育効果について助言・指導を行っております。

特に、中学生の職場体験の受入れにつきましては、平成30年度から、貴所と水戸市教育委員会の間で協定を締結することで、学校が職場体験活動事業所を選定しやすくなるなど、職場体験活動の更なる充実に御協力を賜り、心から感謝いたします。また、貴所のHPに水戸を担う次世代育成委員会作成の「みとっ子お仕事探検隊」のレポートや中学生職場体験MAPを掲載していただき、各校のキャリア教育の推進に活用させていただいております。

小学校においては、全ての教科・領域におきましてキャリア教育の視点をもちながら教育活動を行っており、職場見学又は職場体験を実施している学校が増えている現状があります。「みとっ子お仕事探検隊」につきましても児童の興味・関心が高く、引き続き、児童・保護者への周知について協力してまいりたいと考えております。

今後とも、貴所との連携を深めながら発達段階を踏まえ、系統的・継続的にキャリア教育の推進に努めてまいります。

VI. 中核市としての充実に関する提案・要望

中核市としての充実(継続要望)

〈建設部会〉

水戸市が活力ある発展を続けるには、歴史と伝統・芸術・文化・豊かな自然など、水戸ならではの個性・特色を育み、まちの魅力を高めるとともに、地域の実情に合ったより質の高い市民サービスの迅速かつ効率的な提供を行いながら、自主性・自立性の強化に努めることが必要だと考えます。

水戸市においては令和2年4月に中核市へ移行し、県から移譲された民生行政や保健衛生行政の分野など事務権限を効率的かつ迅速に運用されることが期待されております。

つきましては、魅力ある都市づくりを推進していくため、中核市として市の実情や市民の声を反映させた施策を更に展開し、市民サービスの向上を図られたく要望いたします。

期待される効果等

・市民サービスの向上により、都市の活性化・定住人口の増加につながる。水戸市の魅力的なまちづくりが推進され、都市間の競争力の強化が期待される。

【回答No.49】 担当課：政策企画課

本市におきましては、県都として、また、水戸都市圏のリーダーとして魅力ある都市づくりを進めるため、市民が誇れるまちづくり、特色を生かした自立したまちづくり、選ばれる魅力的なまちづくりに向け、令和2年4月に県内初となる中核市へ移行いたしました。

新型コロナウイルス感染症への対応に当たっては、新たに設置された市保健所を中心として、迅速な情報収集や専門性の高い分析能力など、中核市ならではの強みを十分に生かしながら、スピード感を持って主体的に取り組んでいるところです。

また、本市を含む9市町村で構成する県央地域首長懇話会において、9市町村長の合意のもと、本市が中核市に移行することで実現可能となった連携中枢都市圏を形成し、ビジョンを策定したところであります。圏域全体の経済成長のけん引、高次の都市機能の集積・強化及び圏域全体の生活関連機能サービスの向上に係る取組を実施することにより、活力ある社会経済を維持し、住民が安心して快適な暮らしを営むことができる圏域づくりを進めてまいります。

引き続き、これらの取組を進めるとともに、新たな総合計画の策定に向けた市民1万人アンケートによる市民ニーズの把握に努めながら、保健衛生をはじめとして、民生や環境保全、都市計画・建設、文教などの幅広い分野において、権限を最大限に活かした中核市ならではの個性と特色ある取組を推進し、市民サービスの更なる向上に努めてまいります。